

I. イントロダクション

リトルウェーブ “フリップ” XP車椅子、またはリトルウェーブ “フリップ” XPe車椅子をご購入いただきありがとうございます！

はじめにこのマニュアル全体を読むことなく、この車椅子を使用しないでください。乗車する前に、担当医・セラピスト・車椅子販売店によるこの車椅子の安全な使用に関するトレーニングを受ける必要があります。

この車椅子、このマニュアル、弊社またはお客様の小売業者が提供するサービスについてご質問やご不明な点がある場合は、お気軽に電話でお問い合わせください。

Little Wave “Flip” XP

Little Wave “Flip” XPe

製品取扱説明書



株式会社ユーキ・トレーディング
〒110-0008
東京都台東区池之端2-5-46
TEL : 03-3821-7331
FAX : 03-3821-7552
MAIL : info@yukitrading.com
HP: www.yukitrading.com



II. 目次

I.	イントロダクション	
II.	目次	
III.	通知 - 使用前にお読み下さい	
A.	安全性と安定性	4
IV.	警告	
A.	注意喚起の用語	4
B.	一般的な警告	5
C.	ポジショニングベルト	6
D.	乗車時	7
E.	パワードライブ	8
F.	階段を上る場合	8
G.	階段を下る場合	8
H.	移乗	9
I.	車椅子と使用環境	9
J.	車椅子の改造	10
K.	車椅子の安定性	10
V.	車椅子のセットアップと使用	
A.	リトルウェーブ「フリップ」とそのパーツ	13
B.	輸送時	14
C.	車椅子の折り畳み	17
D.	高さ調整式T型アームサポート	19
E.	角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート	21
F.	アームサポート使用上の警告	22
G.	スイングアウェイハンガー	22
H.	4-Wayタイプラッチ付スイングアウェイハンガー	23
I.	延長チューブ	24
J.	エレベーターフットサポート	25
K.	Proエレベーターフットサポート (Pro-ELR)	26
L.	小児用Proエレベーターフットサポート (小児用Pro-ELR)	27
M.	拘縮用フットサポート	28
N.	マルチアングルフットレスト	29
O.	バックレスト	30
P.	リクライニング式バックレスト	32
Q.	ハンドチルトメカニズム	34
R.	フットチルトメカニズム	36
S.	チルトストップ	36

II. 目次

T.	シートフレームのセットアップ	37
U.	キャスター	38
V.	車軸アーム	40
W.	リアホイール	42
X.	ドラムブレーキ	44
Y.	押し掛け / 引き掛け ブレーキ	46
Z.	介助者用フットブレーキ (ハブロック)	47
AA.	フレーム幅	48
BB.	転倒防止装置	50
CC.	シートパン	52
DD.	ベアリング	53
EE.	キャノピー	54
VI.	メンテナンス	
A.	車椅子の点検	55
B.	定期メンテナンス	56
C.	クリーニング	57
D.	保管	57
VII.	トラブルシューティング	58
VIII.	保証	60

III. 通知 – 使用前にお読みください

A. 安全性と安定性

Ki Mobilityは、ニーズに合ったさまざまな車椅子を製造しています。特定の要件に最適なモデルや、車椅子のセットアップおよび調整方法を選択する際には、担当医・セラピスト・車椅子販売店に相談してください。車椅子の種類、オプション、調整の最終選択は、あなたと彼らあなたの医療専門家のみが行います。選択したオプション、車椅子のセットアップと調整は、その安定性に直接影響します。安全性と安定性に影響する考慮すべき要素は次のとおりです。

- 筋力、バランス、適合など、個人の能力。
- 日中に遭遇する可能性のある危険と障害の種類。
- 特定の寸法、オプション、セットアップ。特に、シートの高さ、シートの奥行き、シートの角度、バックレストの角度、後輪のサイズと位置、フロントキャスターのサイズと位置。これらのアイテムのいずれかを変更すると、車椅子の安定性が変わります。資格のある専門家に相談してから変更を行う必要があります。

IV. 警告

A. 注意喚起の用語

このマニュアルには、注意喚起の言葉が記載されています。これらの単語は、さまざまなハザードの重大度を識別して伝えるために使用されます。この車椅子を使用する前に、あなたとあなたを介助する人は、このマニュアル全体を読んでください。「危険」「警告」「注意」の注意喚起の用語に注意し、考慮してください。すべての指示に従い、車椅子を安全に使用してください。注意喚起の用語は、あなたまたは他の人に重傷または死亡を引き起こす可能性のある危険または危険な行為を指します。注意喚起の用語は、次の3つの主要なカテゴリに分類されます。

危険 - 回避しないと、重傷または死亡につながる差し迫った危険な状況を示します。

警告 - 回避しないと、重傷または死亡につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

注意 - 注意は、回避しないと、怪我や車椅子の損傷につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

これらの注意喚起の用語は、危険な状況を強調するために、必要に応じてマニュアル全体に配置されます。この車椅子の一般的な使用に適用される危険な状況については、次のリストを参照してください。

IV. 警告

B. 一般的な警告

WARNING

危険:リトルウェーブ「フリップ」の重量制限である75 kgを超えないでください。これは、ユーザーと携行するすべてのアイテムの合計重量です。重量制限を超えると、椅子が損傷したり、転倒したり、背中が倒れたりして、ユーザーや他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性が高くなります。

DANGER

危険:この車椅子をウエイトトレーニングに使用しないでください。追加のウエイトを動かすと、車椅子の重心が変わり、転倒の可能性が高くなり、車椅子が損傷したり、あなたや他の人に重傷や死亡を引き起こす可能性があります。

WARNING

警告:車椅子にエアタイヤが装備されている場合、タイヤのサイドウォールに示されている正しい空気圧まで空気が充填されていることを確認してください。車椅子の提供者は、空気入りタイヤがあるかどうかを判断できます。タイヤを適切に膨らませずに車椅子を使用すると、車椅子の安定性に影響を与え、車椅子が転倒して、ユーザーまたは他の人が死亡または負傷する可能性があります。

DANGER

危険:車椅子を傾斜路の上または下に押し下したり、9度を超える斜面を横切ったりしないでください。これは危険であり、転倒や転倒の可能性が高くなり、ユーザーや他の人に重傷や死亡をもたらす可能性があります。

WARNING

警告:滑りやすい場所、氷、油、または水で覆われている斜面に車椅子を押し上げないでください。これにより、不安定な状況が発生し、ユーザーまたは他の人が死亡または負傷することがあります。

DANGER

危険:車椅子の横や後ろに寄りかかって手を伸ばさないでください。これにより、車椅子から転倒したり、転倒してけがや死亡の原因となることがあります。

IV. 警告

B. 一般的な警告



WARNING

危険:アームレストやフットレストなどの取り外し可能な部品を持って車椅子を持ち上げようとししないでください。フレームをつかんで車椅子を持ち上げるだけです。これにより、転倒または制御不能が生じ、重傷または死亡に至る可能性があります。



CAUTION

警告:さまざまなコンポーネントをフレームに固定するボルトとハードウェアを締めすぎないでください。これは深刻な損傷を引き起こし、車椅子の安全性と耐久性に影響を与える可能性があります。

C. ポジショニングベルト

ポジショニングベルトは、車椅子上での適切なポジショニングを支援するように設計されており、シートベルトとして設計されていません。ユーザーの姿勢をサポートする目的のみポジショニングベルトを使用してください。

ポジショニングベルトの誤用は、ユーザーの重傷または死亡の原因となる場合があります。

- ユーザーが車椅子用シートのポジショニングベルトの下を滑らないようにしてください。この場合、ユーザーの呼吸が妨げられ、死亡または重傷を負う可能性があります。
- ポジショニングベルトは、姿勢を保持できる程度には締まっているが、呼吸を制限するほどきつくならない程度にぴったりとフィットしている必要があります。ポジショニングベルトとユーザーの間で手をスライドさせることができる程度です。
- 以下のような場合にはポジショニングベルトを使用しないこと。
 - a. 拘束具として。拘束には医師の指示が必要です。
 - b. 意識を失っているユーザー。
 - c. 自動車の乗員拘束装置として。ポジショニングベルトは、乗り物のフレームに取り付けられているシートベルトを置き換えられるようには設計されていません。急停止による力で、ユーザーは前方に投げ出されます。車椅子のシートベルトではこれを防ぐことはできず、ベルトやストラップでさらに怪我をする可能性があります。



DANGER

危険:上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

IV. 警告

D. 乗車時

車椅子は、コンクリート、アスファルト、フローリングなど平らな地面で使用するように設計されています。濡れた路面や滑りやすい路面で車椅子を押す場合は注意してください。



WARNING

警告:車椅子で砂、ゆるい土壌、または起伏の多い地形に入らないでください。これにより、安定性が失われ、転倒または制御不能となり、重傷または死亡の原因となる場合があります。



WARNING

警告:障害物や道路の危険（穴や壊れた舗装など）は、車椅子に損傷を与えたり、転倒、または制御不能になる可能性があります。この指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。



DANGER

危険:車椅子でエスカレーターに乗らないでください。エスカレーターで車椅子を使用すると、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

これらのリスクを最小限に抑えるには:

- 1) 危険察知の為、乗車時は遠くを見るようにしてください。
- 2) あなたの生活の場や職場の床が平らで、障害物がないことを確認してください。
- 3) 部屋の間の敷居は取り除くか、覆ってください。
- 4) 入口や出口のドアにライトを設置し、ライトの下部に落下物がないことを確認してください。
- 5) バランスの中心を修正するには:
 - a. 障害物を乗り越える時に上半身を少し前方に傾けます。
 - b. 上から下に降りるにつれて、上半身を後方に押しします。
- 6) 車椅子に転倒防止がある場合は、障害物の上へ上がる前にそれらを所定の位置にロックします。
- 7) 障害物を乗り越えるときは、両手をハンドリムの上に置いてください。
- 8) 車椅子を進めるために物(家具や玄関など)を押したり引いたりしないでください。
- 9) 公道、高速道路で車椅子を操作しないでください。
- 10) 支援なしで障害物を乗り越えようとししないでください。

IV. 警告

E. パワードライブ

Ki Mobilityは、リトルウェーブ「フリップ」にパワードライブシステムを取り付けることを推奨していません。

リトルウェーブ「フリップ」車椅子は、電動車椅子として設計またはテストされていません。パワードライブシステムをリトルウェーブ「フリップ」車椅子に取り付ける場合、パワードライブシステムのメーカーがパワードライブシステムとリトルウェーブ「フリップ」の組み合わせを安全かつ効果的であると検証し、承認していることを確認してください。

WARNING

警告:適切に検証されていないパワードライブシステムを使用すると、重傷または死亡につながる可能性があります。

F. 階段を上る場合

- ユーザーと車椅子の重量を支えるのに十分な力とスキルを備えた2人以上が、車椅子ごと階段を上るときに支援してください。
- 車椅子とユーザーが階段の下に移動します。
- ユーザーの前後に1人ずつ配置します。前側の人は車椅子の取り外しできない部分を掴まなければなりません。
- 背後の人が車椅子を後ろに傾け、両方が一緒に持ち上げます。一度に一歩を踏み出します。
- これには、転倒防止装置を跳ね上げるか取り外す必要がある場合があります。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が再び取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。

DANGER

危険:上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

G. 階段を下りる場合

- 階段を下りる際、ユーザーは階段の反対側を向く必要があります。
- ユーザーと車椅子の重量を支えるのに十分な力とスキルを備えた人がユーザーの後ろに回り、車椅子を後方に傾け、車椅子を後輪で1つずつ階段から降ろします。
- これには、転倒防止装置を跳ね上げるか取り外す必要がある場合があります。車椅子を使用する前に、転倒防止装置が再び取り付けられているか、裏返されていることを確認してください。

DANGER

危険:上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

IV. 警告

H. 移乗

移乗には、良好なバランスと安定性が必要です。自分で移乗を試みる前に、セラピストからトレーニングを受ける必要があります。

- 車椅子からの移乗前に、2台の隙間を減らすために細心の注意を払う必要があります。
- ホイールロックを掛けて後輪をロックします。
- キャスターを前方に回転させ、車椅子のホイールベースを延ばします。
- フットレストを取り外すか、スイングアウェイします。
- 移乗の経験が豊富でない場合、誰かの援助が必要です。

自分だけで乗り移るのは危険です。バランスと俊敏性が必要です。車いすの座面があなたの下がない場合、移乗中の動作全てに注意すべき点があります。

WARNING

警告:上記の指示に従わない場合、転倒または制御不能になり、重傷または死亡に至る可能性があります。

I. 車椅子と使用環境

- 車椅子は、金属や布など、さまざまな素材で作られています。水や過度の湿気にさらされると、車椅子の金属が錆びたり腐食したり、布が裂けたりする可能性があります。水にさらされた場合は、できるだけ早く椅子を乾かしてください。
- シャワー、プール、または体が濡れた状態で車椅子を使用しないでください。これにより、車椅子が錆びたり腐食したりし、最終的には故障します。
- 車椅子を砂の上で操作しないでください。砂がホイールベアリングや可動部品に侵入する可能性があります。これにより損傷が生じ、最終的に車椅子が故障します。
- 乗ろうとするランプ、スロープ、縁石の切り口がADAガイドラインに準拠していることを確認してください。勾配が大きすぎる場合は、安定性が失われる可能性があります。

ADAガイドラインおよびアクセシビリティ設計に関する詳細情報は、以下で入手できます。

<http://www.ada.gov/>

WARNING

警告:上記の指示に従わない場合、転倒または制御不能になり、重傷または死亡に至る可能性があります。

IV. 警告

J. 車椅子の改造

車椅子は、厳格な設計管理の下で設計および製造されています。このプロセスの不可欠な部分は、さまざまなコンポーネントが正しく連携することを保証することです。それらは品質を保証するためにさまざまな基準でテストされており、連携することが承認されています。

コンポーネントを変更、追加、削除したり、この車椅子を変更したりしないでください。承認されたオプションを組み立てることを除いて、この車椅子を改造する人はいません。訓練されたキーモビリティ以外の人がフレームを掘削または切断することを承認する選択肢はありません。キーモビリティが提供していないアクセサリやコンポーネントを追加する場合は、事前に(株)ユーキ・トレーディングまたは車椅子販売店にお問い合わせください。

DANGER

危険:これらの指示に従わない場合、車椅子が故障し、重傷または死亡に至る可能性があります。

K. 車椅子の安定性

車椅子の適切な安定性を確保するには、重心と車椅子のベースがバランスと能力に合っていることを確認する必要があります。これらの2つの要素には多くの要因が影響します。:

- ・ 座面の高さ
- ・ 座面の奥行
- ・ バックレストの角度
- ・ 座面の角度
- ・ 後輪のサイズと位置
- ・ フロントキャスターのサイズと位置
- ・ シーティングシステムのコンポーネント
- ・ チルト位置

一般的に、最も重要な要素は後方安定性のための後輪の位置です。安定性に悪影響を与える可能性がある他のアクションがあります。これがあなたの使用にどのように影響するかを決定する際には、車椅子提供者とあなたのニーズと能力に精通した臨床医と相談する必要があります。

WARNING

警告:この車椅子には、シートフレームの傾斜角度を変えるシステム(チルト)が装備されています。地面が水平か傾いているかにかかわらず、どのチルト角度においても車椅子が安定しない場合は使用しないでください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:後輪を前方に動かすと、車椅子が後方に倒れる可能性が上がります。車いすの新しいバランスポイントがわかるまで、少しずつ調整してゆっくりと動かします。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

IV. 警告

K. 車椅子の安定性

WARNING

警告:フロントキャスターを後方に置くほど、車椅子が前方に傾く可能性が高まります。可能であれば、キャスターを前方に取り付け、体重を移動する静的なアクティビティを行うときは常に、キャスターを前方に回転させてホイールベースを増やします。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:必ず、資格のある技術者に、毎日使用する予定の付属品で車椅子をセットアップしてもらいます。

WARNING

警告:座り方の変更や体重の変更には、資格のある技術者による椅子の再調整が必要です。椅子のセットアップの変更に順応する間は、常に転倒防止装置を使用してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:毎日の活動中の重心の変化は1日に何度も発生し、車椅子の安定性に影響を及ぼします。これらの活動を認識し、転倒のリスクを最小限に抑えるための予防策を講じる必要があります。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:車椅子上で着替えると、動きにより一時的に重心の移動が生じ、安定性が低下する可能性があります。転倒防止装置が所定の位置にあることを確認し、キャスターを前方に回転させます。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:物に手を伸ばす際、この動きで座席を移動する必要がある場合は、最大限注意してください。これにより、重心が変わります。転倒防止装置が適切に配置されていることを確認してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

WARNING

警告:傾斜を押し上げると、重心が後方に移動し、安定性が低下する可能性があります。転倒防止装置が適切に取り付けられていることを確認してください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

IV. 警告

K. 車椅子の安定性

⚠ WARNING ⚠

警告: ウィリーで縁石や障害物を乗り越えようとする場合は、転倒防止装置を所定の位置に設定し、身体が前かがみになっていることを確認してください。必要に応じて支援を提供するための訓練を受けた介助者が常にあなたの後ろにいる場合を除き、ウィリーを試みないでください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠ WARNING ⚠

警告: バックパックやブリーフケースなど、車椅子の背面または前面にアイテムを配置すると、車椅子のバランスと重心が変化します。これらのアイテムの重量は使用するたびに大きく変わる可能性があるため、バランスポイントに慣れていないと思いこまないでください。上記の指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

車椅子に重いものを載せると、バランスに悪影響が出て、ひどい怪我や死亡につながる可能性があることに注意してください。

⚠ WARNING ⚠

警告: 転倒防止装置が適切に取り付けられていることを確認してください。車椅子の使用方法または計画している変更については、臨床医と話し合う必要があります。この指示に従わないと、潜在的な危険な状況が発生する可能性があります、回避しないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

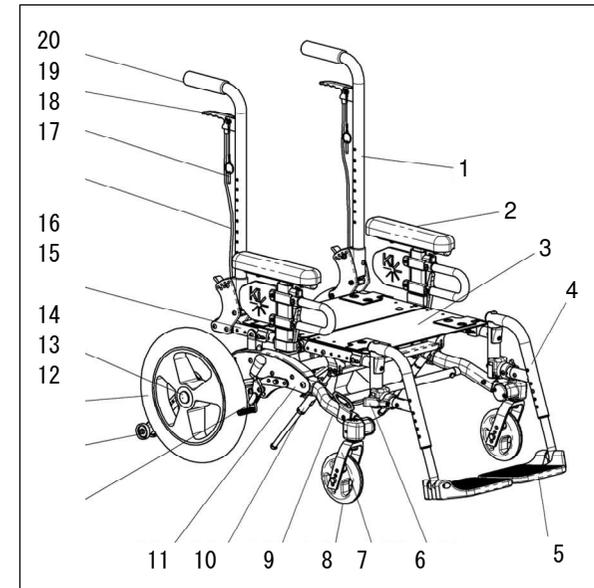
V. 車椅子のセットアップと使用

A. リトルウェーブ「フリップ」と付属部品

1. 55ページのメンテナンスを確認し、この車椅子の保守と点検をして下さい。
2. 問題を発見した場合は、ご使用前に必ず調整や修理を行って下さい。
3. 毎年、完全な検査、安全性の確認と点検を認定サプライヤーから受けて下さい。

⚠ WARNING ⚠

警告: これらの指示を読まなかったり、守らなかった場合、車いすの破損、転倒、または制御不能になり、ユーザーや他の人々に重大な傷害を与える可能性があります。



- | | |
|----------------|------------------|
| 1. バックケイン | 11. ベースフレーム |
| 2. 高さ調整アームレスト | 12. ホイール |
| 3. シートパン | 13. 転倒防止装置 |
| 4. フットレストハンガー | 14. 後輪 |
| 5. フットレスト | 15. クイックリリースアクスル |
| 6. スイングアウェイレバー | 16. シートチューブ |
| 7. キャスターフォーク | 17. ティルトケーブル |
| 8. キャスターホイール | 18. ティルトロックピン |
| 9. キャスターアーム | 19. ティルトレバー |
| 10. メカロック | 20. プッシュハンドル |

V. 車椅子のセットアップと使用

B. トランジットの使用

適切なシートベルトとショルダーベルトを使用して、車椅子から自動車のシートに移動するのが最も安全です。トランジットオプションが装備されていない限り、この車椅子を自動車の座席として使用しないでください。

トランジットオプションを装備したリトルウェーブ「フリップ」シリーズ車椅子は、RESNA WC-4 : 2012、セクション19 : 自動車の座席として使用される車椅子、およびISO 7176-19 : 2008車椅子でテストされ、合格しています。自動車の座席として使用するための車輪付き移動装置。RESNAおよびISO規格は、自動車に使用するための座席としての車椅子の構造的完全性を試験するように設計されています。これらの規格は、車椅子用固定装置および乗員固定システム (WTORS) との互換性を生み出すようにも設計されています。

リトルウェーブ「フリップ」車椅子のすべての構成がトランジットオプションと互換性があるわけではありません。キーモビリティは設定を管理し、互換性のある設定を除いてリトルウェーブ「フリップ」車椅子を提供しません。受け取った後にリトルウェーブ「フリップ」車椅子に変更を加える場合は、車椅子を自動車の座席として使用し続けることが適切であることを確認するために、車椅子販売店またはキーモビリティにお問い合わせください。

純正でない（中古等含む）の座席はトランジットオプションの一部として設計され、テストされた元の機器の座席と背部サポートを取り替えられているかもしれません。車椅子の提供者は提供している座席が、元の装備品が交換後の純正ではない座席かをあなたに伝える必要があります。トランジットオプションを装備したリトルウェーブ「フリップ」車椅子を自動車の座席として使用する前に、このセクションに記載されている全ての基準に準拠している、車椅子フレーム、座席、車椅子固定装置および乗員拘束装置の完全なシステム、及び、適切に装備された自動車を、準備する必要があります。

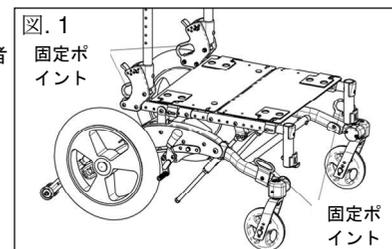
車椅子を自動車の座席として使用するときは、必ず次の指示に従ってください。

- 搭乗者は必ず前向きに座る必要があります。
- 搭乗者と持ち運ぶ荷物は絶対に75kgを超えないようにして下さい。
- バックパックとポーチは、取り外して自動車の別々に固定する必要があります。事故が発生した場合、これらのアイテムは危険物になる可能性があります、これがあなたや自動車の他の乗員を傷つけたり殺したりする可能性があります。
- 搭乗者は、下記に準拠した車椅子固定装置及び乗員固定システムを使用しなければなりません。(RESNA WC-4:2012のセクション18:自動車で使用される車椅子固定及び乗員拘束システム。ISO 10542-1 : 2012 障害者又は身体障害者用の補助具 - 車椅子の縛り付け及び乗員固定システム - 第1部 : すべてのシステムに対する要求事項及び試験方法)
- 車椅子固定メーカーの説明書およびRESNA WC-4に従い、トランジットオプション (図1) を使用して、リトルウェーブ「フリップ」車椅子の4か所の固定ポイント (前部2、後部2) に車椅子固定具を取り付けます。 : 2012、セクション18、またはISO 10542-1 : 2012 - パート1。
- 乗員拘束装置の製造元の指示およびRESNA WC-4 : 2012、セクション18またはISO 10542-1 : 2012、パート1に従って乗員拘束装置を取り付けてください。

V. 車椅子のセットアップと使用

B. トランジットの使用

- RESNA WC-4 : 2012のセクション18、またはISO 10542-1:2012パート1に従って製造業者からマークされていない限り、ラップベルト、チェストストラップ、ショルダーハーネス、その他のポジショニングストラップシステムまたはポジショニングアクセサリを使用したり、乗員固定装置として使用したりしないでください。



- 下記に従って製造者からマークされていない限り、ヘッドレスト、ラテラルサポート、またはその他のポジショニング用アクセサリを使用したり、乗員拘束装置として信頼しないでください。(RESNA WC-4 : 2012のSection 18、またはISO 10542-1 : 2012のパート1、RESNA WC-4 : 2012、セクション20 : 自動車用の車椅子用座席システム、ISO 16840-4 : 2009車椅子用の座席 - パート4 : 自動車用に使用される座席システム)
- 純正でない座席は、RESNA WC-4 : 2012、Section 20、またはISO 16840-4 : 2009 - Part 4に準拠するようにテストする必要があります。
- 座席メーカーの指示およびRESNA WC-4 : 2012、セクション20、またはISO 16840-4 : 2009 - パート4に従って、座席を車椅子フレームに取り付けます。
- トレイ、酸素ボンベホルダー、酸素ボンベ、IVボール、バックパック、ポーチなど、キーモビリティ製ではない、純正ではないアクセサリは、取り外して自動車の固定する必要があります。事故が発生した場合、これらのアイテムは危険な発射物になり、あなたや自動車の他の乗員を殺傷する可能性があります。
- 車椅子が事故に巻き込まれた場合は、目に見えないダメージを負っている可能性があるため、それを使い続けるべきではありません。



危険:これらの指示に従わなかった場合、重傷または死亡に至る可能性があります！

- この車椅子を自動車の座席として使用する場合は、ベントトレイ、バッテリートレイ、酸素ボンベホルダーに付いているものをすべて取り除き、別々にしっかりと固定する必要があります。



危険:ベントトレイ、バッテリートレイまたは酸素ボンベホルダーに付いているものを取り除き、それらを自動車の別々にしっかりと固定しないと、事故の際にこれらのものが危険な発射物になる可能性があります。酸素ボンベには、激しく燃焼を加速させる高圧ガスが含まれています。この警告を守らないと、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

- 車椅子に酸素ボンベホルダーが装備されている場合は、車椅子を自動車の座席として使用しないでください。



危険:酸素ボンベホルダー付きの「フリップ」を自動車の座席として使用すると、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

V. 車椅子のセットアップと使用

B. トランジットの使用

注: RESNAまたはISO規格のコピーを入手する場合、以下の規格団体にご連絡ください。

RESNA

1700 North Moore St., Suite 1540

Arlington, VA 22209

Phone: 703-524-6686

Fax: 703-524-6630

Email: technicalstandards@resna.org

ANSI/RESNA Standards:

RESNA WC-4:2012, Section 18:

Wheelchair tie-down and occupant restraint systems for use in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012, Section 19:

Wheelchairs used as seats in motor vehicles.

RESNA WC-4:2012, Section 20:

Wheelchair seating systems for use in motor vehicles.

International Organization for Standardization (ISO)

BIBC II

Chemin de Blandonnet 8

CP 401

1214 Vernier,

Geneva Switzerland

Phone: +41 22 749 01 11

Fax: +41 22 733 34 30

Email: central@iso.org

ISO Standards:

ISO 10542-1:2012 Technical systems and aids for disabled or handicapped person -- Wheelchair tie-down and occupant-restraint systems -- Part 1:

Requirements and test methods for all systems. ISO 16840-4:2009 Wheelchair seating -- Part 4: Seating systems for use in motor vehicles.

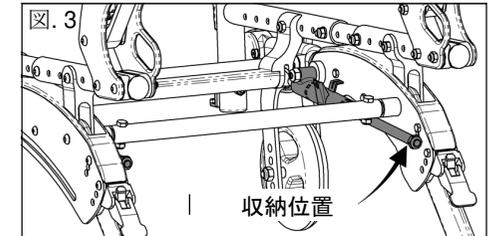
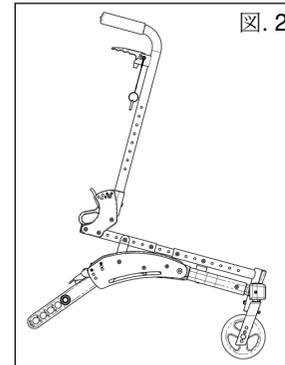
ISO 7176-19:2008 Wheelchairs -- Part 19:

Wheeled mobility devices for use as seats in motor vehicles.

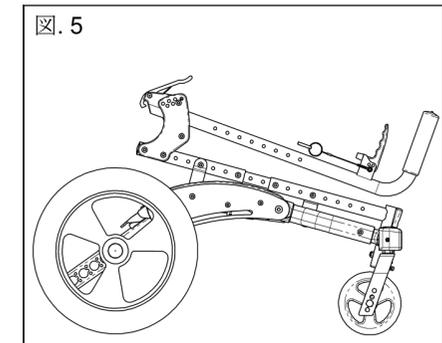
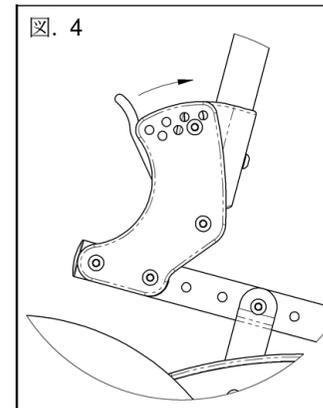
V. 車椅子のセットアップと使用

C. 車いすの折り畳み

1. フットレストと「T」アームレストを取り外します（取り外し手順については、セクションD：高さ調整式T型アームサポートとG：スイングアウェイハンガーを参照してください）。
2. 必要に応じて座席を外します。
3. ティルトハンドレバー（セクションQ：ハンドティルトメカニズム）またはフットティルトペダル（セクションR：フットティルトメカニズム）を使用して、シートフレームの底部がベースフレームカバーのベース上部に接触するまで、シートフレームの前部を下に傾けます（図2）。メカロックが正しく引き込まれていることを確認してください（図3）。



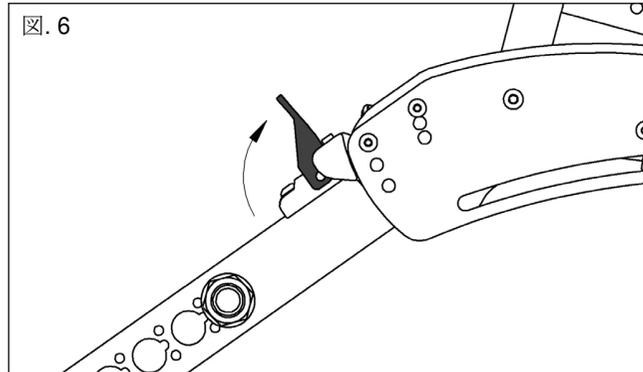
4. 両方のバックレストリリースレバーを前方に押し、ラッチを解除します（図4）。
5. パイプをシートフレームの前側に向かって下に倒します（図5）。
6. 高さ調節可能な背もたれが取り付けられている場合は、プッシュハンドルを折りたたんでサイズを最小限に抑えることもできます。



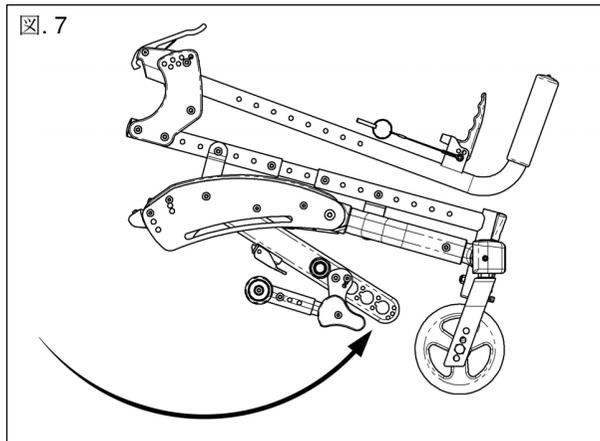
V. 車椅子のセットアップと使用

C. 車いすの折り畳み

7. 転倒防止バーを上に戻し(セクションBB:転倒防止バーを参照)、次に車輪を外し、椅子の両側にあるアクスルアームの上にある赤いレバーを上に戻します(図6)。椅子が折り畳まれるまで、レバーは直したままになります。



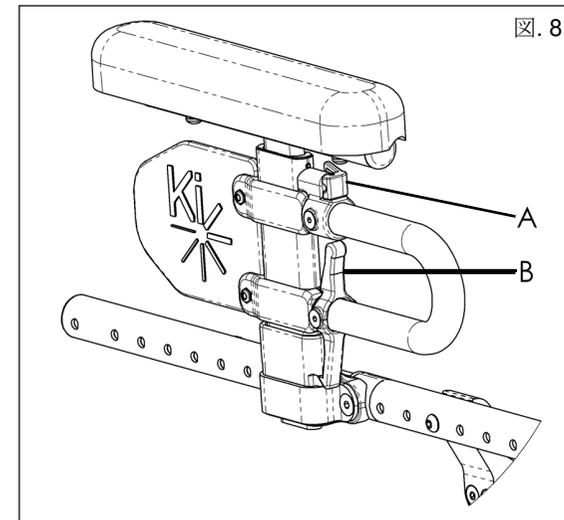
8. 車いすの後部を床から持ち上げて、アクスルバーを下に戻しながら、サイドフレーム間のベースフレーム下部のスリットにはめ込みます(図7)。



V. 車椅子のセットアップと使用

D. 高さ調整式 T型アームサポート

- 取り付け
 - 車椅子フレームに取り付けられたレシーバーに外側のアームポストをスライドさせます。
 - アームレストは自動的に所定の位置にロックされます。ロックレバーが図のようになっていることを確認してください(図8:B)。
- 高さ調整
 - リリースレバーを回します(図8:A)。
 - アームレストパッドを希望の高さまで上下にスライドさせます。
 - レバーをアームポストに対してロック位置に戻します。
 - 上部アームポストが所定の位置にしっかりと固定されるまで、アームパッドを押します。ロックレバーが図のようになっていることを確認してください(図8:A)。
- 取り外し
 - リリースレバーを握り(図8:B)、アームレストを取り外します。

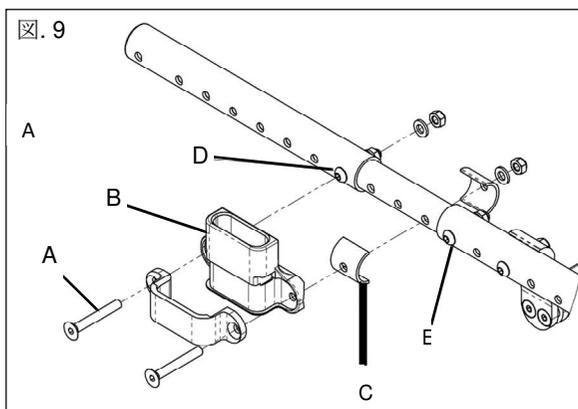


V. 車椅子のセットアップと使用

D. 高さ調整式 T型アームサポート

4. 前後位置調整

- 取り付けられている場合はスペーサー (図9:C) を保持しながら、各アームレストレシーバー (図9:B) から両方のねじ (図9:A) を取り外します。工場出荷時に設置されていない場合は、梱包の中の別の袋に入っています。
- レシーバーをシートフレームの希望する位置に移動し、ワッシャーとナットでネジを締めて締めます。
- 新しいアームレストレシーバーの位置のネジがシートフレームのネジと一致している場合 (図9:D及びE)、シートフレームのネジを外してアームレストレシーバーのネジと交換します。将来の使用に備えてこれらのネジを保管してください (捨てないでください)。あるいは、必要に応じて、それらをシートフレームの別の場所に取り付けることで固定できます。
- アームレストレシーバーネジの1本がシートフレームの中央のグロースセクションにある場合は、取り付け穴の場所でグロースチューブの周囲にスペーサーを (手順1で説明したように) 使用してください。



⚠ DANGER ⚠

危険: 上記の指示に従わないと、アームレストが誤って車椅子から外れ、転倒や制御不能になり、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

⚠ DANGER ⚠

危険: 肘掛けで椅子を持ち上げようとししないでください。それらは壊れたり切断されたりして、転倒や制御の喪失を招き、重大な人身事故または死亡を引き起こす可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

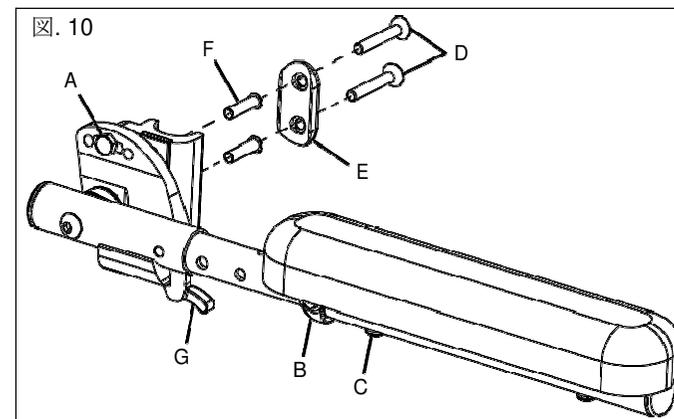
E. 角度・長さ段階調節式フリップアップアームサポート

各部調整

- アームサポートを好みの角度に設定します。角度を設定するために使用できる穴が5つあります (図10:A)。角度を設定したらボルトを締めます。
- アームサポートを好みの長さに設定します。長さを調整するには、チューブのボルトとスペーサー (図10:B) と、車椅子の後ろに最も近いネジ (図10:C) を外します。あらかじめあけられた穴によって利用可能な希望の長さに肘掛けをスライドさせて、ネジとボルトを再び取り付けます。
- アームサポートを好みの高さに設定します。アームレストには4本の穴があり、バックチューブの各組の穴に対して2つの異なる高さ設定が可能です。ユーザーにとって正しい高さ設定が可能な穴を使用してください。2本のボルト (図10:D) がスペーサー (図10:E)、スリーブ (図10:F)、バックポストを通り、アームレストに入ります。

使用

- 解除レバー (図10:G) を押し上げてアームレストを解除し、上方に回転させます。アームレストを操作位置に戻すには、カチッという音がしてロックされるまでアームレストを押し下げます。



⚠ DANGER ⚠

危険: 自分で位置を変える前に、アームが所定の位置に固定されていることを必ず確認してください。転倒や制御不能になり、重傷や死亡の原因となることがあります。

⚠ DANGER ⚠

危険: アームレストで椅子を持ち上げようとししないでください。それらは壊れたり切断されたりして、転倒や制御の喪失を招き、重大な人身事故または死亡を引き起こす可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

F. アームサポート使用上の警告

- 全てのKi Mobilityアームレストは車椅子から外れるように設計されており、車椅子の重さには耐えられません。
- 絶対にアームサポートを用いて車椅子を持ち上げないでください。アームサポートが外れ、事故が発生する可能性があります。
- 車椅子を持ち上げる際はメインフレームの取り外しができない箇所を用いてください。

⚠ WARNING ⚠

警告:これらの指示に従わないと、落下、転倒、または制御不能になり、ユーザーまたは他の人に重傷を負わせる可能性があります。

G. スイングアウェイハンガー

1. 取り付け

- a. フットレストがフレームの内側または外側を向くようにして、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます (図11)。
- b. フットレストがラッチブロックの所定の位置に固定されるまでフレームと揃うように、フットレストを回転させます (図12)。

2. フットレストのスイングアウェイ

- a. リリースラッチをフレームの方向に押します。
- b. 必要に応じてフットレストを外側または内側に回転させます。

3. 取り外し

- a. フットレストを取り外すには、リリースラッチをフレームの方向に押します。
- b. フットレストを真上に持ち上げて取り外します。また、持ち上げる前に、フットレストを内側または外側にスイングすることもできます。

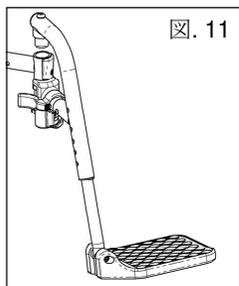


図. 11

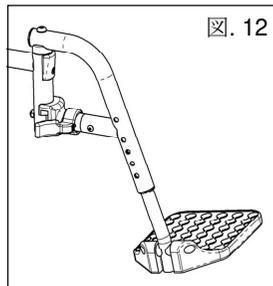


図. 12

⚠ WARNING ⚠

警告:使用する前や車椅子に乗る前には、必ずハンガーが所定の位置に固定されていることを確認してください。これを怠ると、転倒やコントロールの喪失を招き、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

⚠ DANGER ⚠

危険:ハンガーで椅子を持ち上げようとししないでください。それらは壊れたり切断されたりして、転倒や制御の喪失を招き、重大な人身事故または死亡を引き起こす可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

H. 4-Wayタイプラッチ付スイングアウェイハンガー

1. 取り付け

- a. スイングピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます (図13:A)。
- b. フットレストを回転させてフレームに合わせ、ラッチブロックの所定の位置に固定します (図13:B)。

2. フットレストのスイングアウェイ

- a. リリースラッチを押します。
- b. 必要に応じてフットレストを外側または内側に回転させます。

3. 取り外し

- a. フットレストを取り外すには、リリースラッチを押したり引いたりします。
- b. フットレストを真上に持ち上げて取り外します。フットレストを持ち上げる前に、フットレストを内側または外側にスイングすることもできます。

4. 回転 (図14)

4方向ラッチには8つの可能な形状があり、そのうち4つは曲線でレバーのカーブは内側を向き、もう4つはレバーのカーブが外側を向いています。図15を参照してください

- a. 4方向ラッチを回転させるには、ハンガーがまだ椅子に固定されている状態で3mmアレックスレンチを使用してねじを取り外します (ねじを取り外して再び挿入し、ハンガーを簡単に固定するとねじは固定されます)。ナットが落ちないことを確認してください。
- b. 4方向ラッチを目的の方向に回転させ、3 mmアレックスレンチでねじを締め直します。ねじを締めている間、ナットが正しい位置にあることを確認してください。ねじを締めすぎないでください。

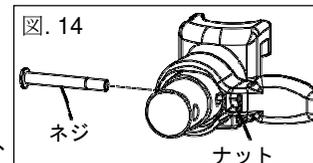


図. 14

ネジ

ナット

注:4方向ラッチを逆にするには、同じねじを外しますが、ハンガーをラッチブロックから取り外す必要があります。

取り外したら、ラッチをスライドさせて裏返し、裏返してから取り付け直します。ラッチボタンを押したままにしてバネがかみ合っていることを確認します。ねじを取り付け直す間、ナットは所定の位置に留まります。

注:Pro-ELRフットレストオプションではインライン位置にはできません。

注:フリップでは、4方向ラッチを縦にした状態で使用すると、ハンガーを外さずに椅子を折りたたむことができます。

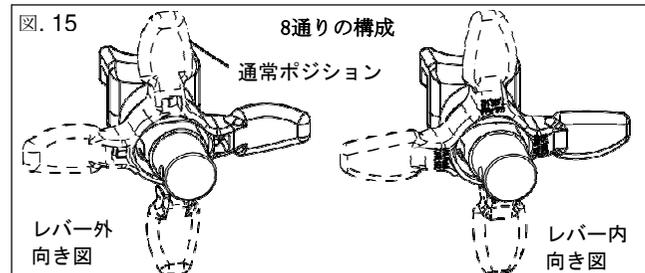


図. 15

8通りの構成

通常ポジション

レバー外向き図

レバー内向き図

V. 車椅子のセットアップと使用

I. 延長チューブ

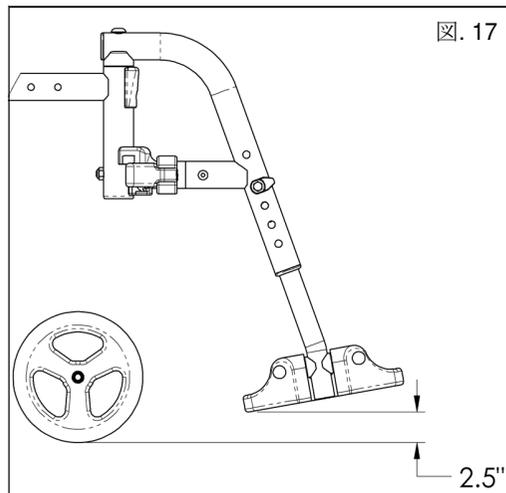
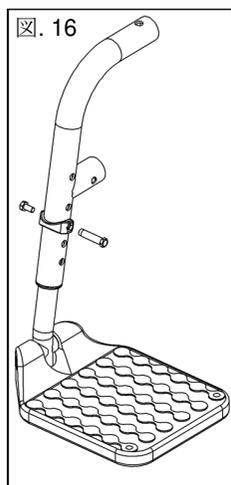
1. 調整

- ハンガーチューブの両側から取り付けファスナーを外します。
- フットレスト延長チューブを希望の高さまでスライドさせます。
- 穴を揃えて、ハンガーと延長チューブを介して必要な穴にファスナーを組み立てます。
- 反対側でも同じ手順に従ってください(図16)。

最低点では、フットレストは最低2.5インチ(6.35 cm)地上から離れた位置にしてください。低く設定しすぎると、通常の使用で予見される障害にぶつかる可能性があります。車椅子が突然停止して前に倒れることがあります(図17)。

移乗時のつまずきや落下を防ぐために:

- 足がフットレストの間のスペースに引っかからないようにしてください。
- 椅子が前方に傾く可能性があるため、フットレストに体重をかけないでください。



V. 車椅子のセットアップと使用

J. エレベーターフットサポート

1. 取り付け

- フットレストがフレームの内側または外側を向くようにして、旋回式サドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。図11・図12と同様です。
- フットレストを回転させて、ラッチブロックの所定の位置に固定されるまでフレームと揃うようにします。

2. 取り外し

- フットレストを取り外すには、リリースラッチをフレームの方向に押しします。
- フットレストを外側に回転させて持ち上げます。

3. 延長チューブの調整

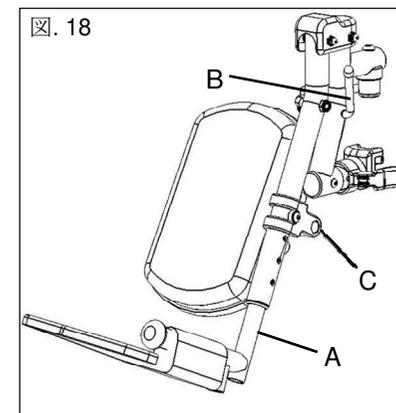
- パッドブラケットの中央にあるレッグレストチューブにねじ込まれている取り付けボルトを外します(図18:C)。状況によっては、このボルトがピボットブラケットの下のチューブに挿入されることがあります。
- フットレスト延長チューブを希望の高さまでスライドさせます。
- 穴を揃えて、レッグレストチューブと延長チューブを通してボルトを交換します。
- 反対側でも同じ手順に従ってください。

4. 角度の調整

- 上げるには、延長チューブの後部を持ち上げます(図18:A)。ロッドはラチェットを通してこの方向にスライドします。希望の位置に停止します。
- 下げるには、延長チューブの後ろから脚をしっかりと持ちます(図18:A)。レバーを手前に引き(図18:B)、レバーを持ちながらレッグレストを持ち上げます。レバーを放すと、レッグレストが固定されます。

移乗時のつまずきや落下を防ぐために:

- 足がフットレストの間のスペースに引っかからないようにしてください。
- 椅子が前方に傾く可能性があるため、フットレストに体重をかけないでください。



▲ WARNING ▲

警告:最低点では、フットレストは地上から最低2.5インチ(6.35 cm)離れた位置にしてください。低く設定しすぎると、通常の使用で予見される障害にぶつかる可能性があります。車椅子が突然停止して前に倒れ、転倒や制御不能になり、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

▲ DANGER ▲

危険:ハンガーで椅子を持ち上げようとししないでください。それらは壊れたり切断されたりして、転倒や制御の喪失を招き、重大な人身事故または死亡を引き起こす可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

K. Proエレベータリングフットサポート (Pro-ELR)

取り付け

注:Pro-ELRは、スイングアウェイハンガーと同じ方法で椅子に取り付けられます。

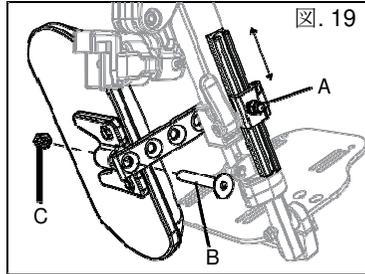
1. レッグレストをフレームの内側または外側に向けて、スイングピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。
2. レッグレストを回転させてフレームに合わせ、ラッチブロックの所定の位置に固定します。

カーフパッドの高さ調整

1. 10mmレンチを使用しナット(図19:A)を緩めます。
2. カーフパッドアームを目的の位置まで上下にスライドさせます。ナットを締めます。

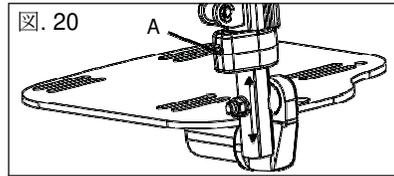
カーフパッドの深さ調整

1. 延長チューブを内側または外側にスライドさせて目的の長さにし、止めネジを締めて固定します。
2. 4つの穴をあけて、目的の位置を選び、ネジとナットを取り付けます。



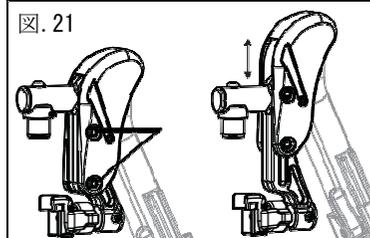
フットレストの長さを調整する

1. 4mm六角レンチでネジ(図20:A)を緩めます。
2. 延長チューブを内側または外側にスライドさせて目的の長さにし、止めネジを締めて固定します。



膝の高さを調整する

1. 2本の10mmソケットレンチを使用して、カバーの2本の図21ナット(図21:A)を緩めます。
2. 膝の高さを希望の位置に調整します。
3. 希望の高さで2つのナットを締めます(図21:A)。



使用

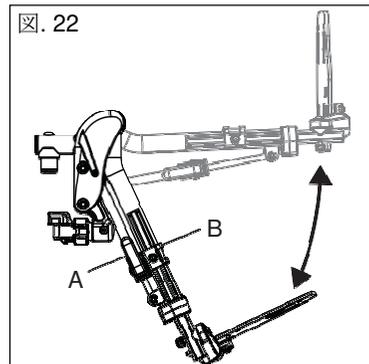
1. Pro-ELRを上げるには、レッグレストチューブ(図22:A)を希望の仰角まで持ち上げます。
2. Pro-ELRを下げるには、レバーロックを押し続け(図22:B)、レッグレストチューブ(図22:A)を押し下げます。

注:レバーロックを押ししたときに急激に落ちないように、Pro-ELRを椅子から取り外すか、または下げながらPro-ELRから体重を取り除いて下さい。

注:カーフパッドは、移乗の際に椅子の前面をクリアするために、外側にスイングアウトできます。

取り外し

1. レッグレストを取り外すには、リリースラッチを押し引きします。
2. レッグレストを真上に持ち上げて取り外します。また、持ち上げる前に、レッグレストを内側または外側にスイングアウトします。



V. 車椅子のセットアップと使用

L. 小児用Proエレベータリングフットサポート (小児用Pro-ELR)

取り付け

注:小児用Pro-ELRは、スイングアウェイハンガーと同じ方法で椅子に取り付けられます。

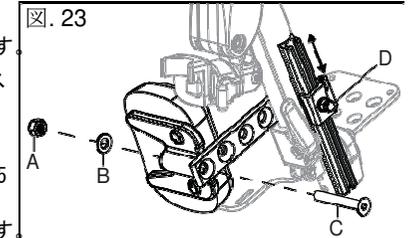
1. レッグレストをフレームの内側または外側に向けて、スイングピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます。
2. レッグレストを回転させてフレームに合わせ、ラッチブロックの所定の位置に固定します。

カーフパッドの高さ調整

1. 10mmレンチを使用しナット(図23:D)を緩めます。
2. カーフパッドアームを目的の位置まで上下にスライドさせます。ナットを締めます。

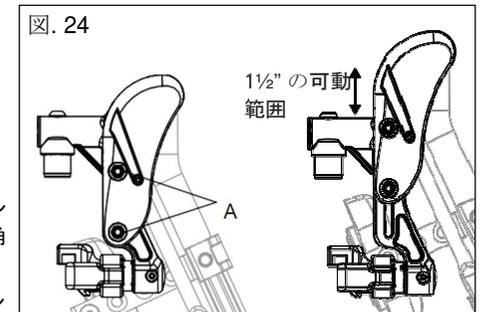
カーフパッドの深さ調整

1. Rネジ(図23:C)、ワッシャー(図23:B)を外し、5mm六角レンチと13mmレンチを使用し、カーフパッドアームにナット(図23:A)を取り付けます。
2. 4つの穴をあけて、目的の位置を選び、ネジとナットを取り付けます。



膝の高さを調整する

1. 2本の10mmソケットレンチを使用し、2本のナット(図24:A)を緩めます。
2. 膝の高さを希望の設定に調整します。
3. 希望の高さになったら、2つのナットを締めます(図24:A)。



使用

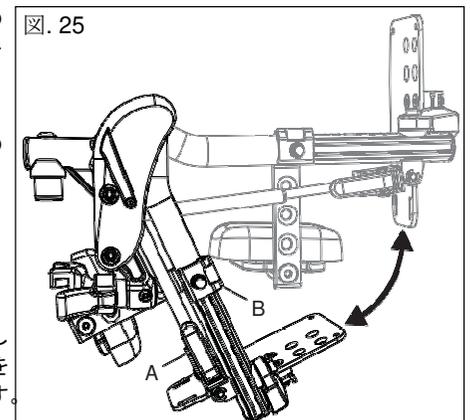
1. 小児用Pro-ELRを上げるには、レッグレストチューブ(図25:A)を希望の仰角まで持ち上げます。
2. 小児用Pro-ELRを下げるには、レッグレストチューブ(図25:A)を押し下げながらレバーロック(図25:B)を押し続けます。

注:レバーのロックが押されたときの突然の落下を防ぐため、下降中に小児用Pro-ELRを車椅子から取り外すか、または小児用Pro-ELRから体重を取り除いてください。

注:カーフパッドは、移乗の際に、車椅子の前面をクリアするために外側にスイングアウトできます。

取り外し

1. レッグレストを取り外すには、リリースラッチを押し、または引きします。
2. レッグレストを真上に持ち上げて取り外します。持ち上げる前にはレッグレストを内側または外側にスイングアウトします。



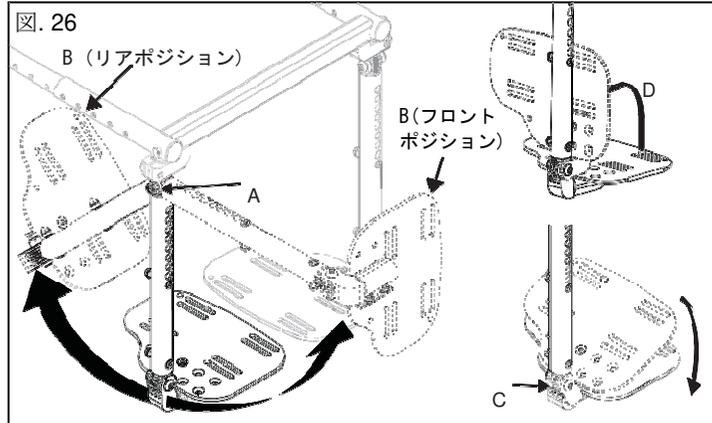
V. 車椅子のセットアップと使用

M. 拘縮用フットサポート

1. フットサポートとフットプレートの角度の変更

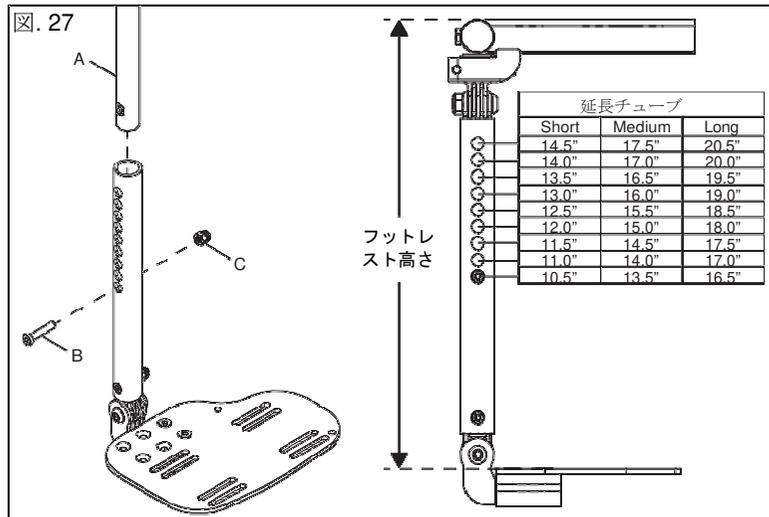
注: 拘縮用フットサポートはアウトサイドマウント構成で示されています。インサイドマウントは、レッグレストを反対側に動かすことで実現できます。

- 拘縮用フットサポートのフットレストは、上部のピボットポイントに調整するだけで、車椅子に向かって傾斜させることができます(図26:A)。
- 拘縮用フットサポートのフットプレートは前後に動かすことができ(図26:B)、角度調節(図26:C)、持ち上げるために跳ね上げることができます(図26:D)。



2. フットレストの高さを変更する

- 長いピボット(図27:A)からネジ(図27:B)とナット(図27:C)を外し、延長チューブを希望の高さまでスライドさせます。各穴に対応するフットレストの高さについては、図27の表を参照してください。

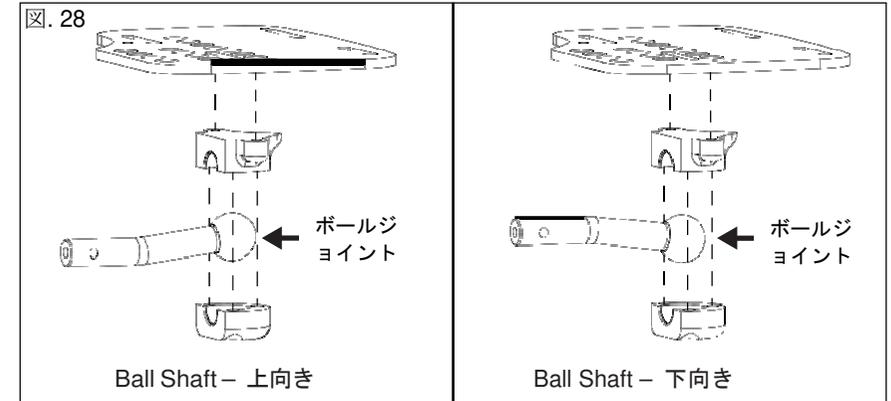


V. 車椅子のセットアップと使用

N. マルチアングルフットプレート

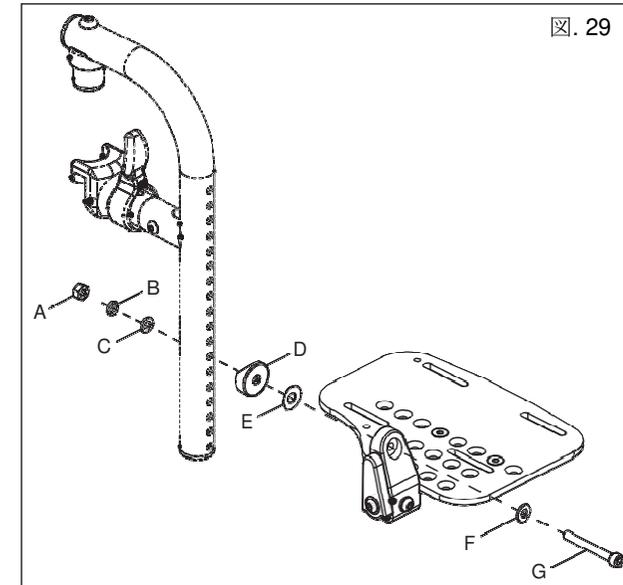
1. フットレストの角度変更 (図:28)

マルチアングルフットプレートは、フットプレートの上部の異なる場所に圧力を加えるだけで、フットレストをさまざまな角度に設定できるボールジョイントを使用しています。



2. フットレストの角度変更

- ネジ(図29:G)、ワッシャー(図29:F)、ワッシャー(図29:E)、サドルスペーサー(図29:D)、ワッシャー(図29:C)、ワッシャー(図29:B)およびナット(図29:A)、5 mm六角レンチと10 mmレンチを使用します。
- フットプレートアセンブリを希望の高さまでスライドさせ、ハードウェアを最も近い穴に再取り付けします。

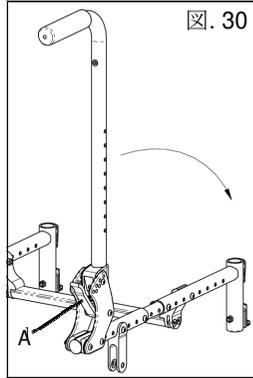


V. 車椅子のセットアップと使用

0. バックレスト

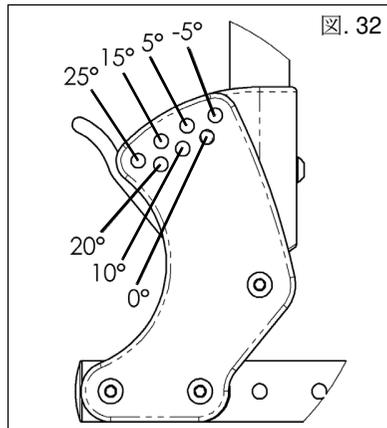
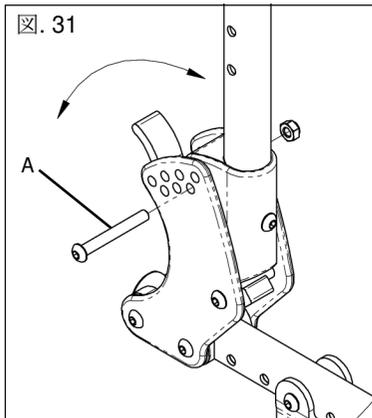
1. バックレストの折り畳み

- 車椅子に折り畳み式のバックレストが装備されている場合は、レバー（図30：A）を椅子の前方向に押し、ラッチを外します。バックレストシートが取り付けられている場合は、バックレストを折りたたむために両方のラッチを同時に外す必要があります。
- バックレストを前に押し、下に回転させます。前方に回転し始めたら、ラッチレバーを放すことができます。



2. 角度調整

- 4mmのアレンレンチと10mmのレンチを使用して、ワッシャーとナットでボタンヘッドネジ（図31：A）を取り外します。
- 必要な角度に背もたれを回転させます。各穴は5°の回転を表します。上の列の穴は-5°、5°、15°、25°に対応し、下の列の穴は0°（垂直）、10°、20°に対応します（図32を参照）。
- ボタンの頭のネジを交換し、ワッシャーとナットで締めます。
- 椅子の反対側についても繰り返します。

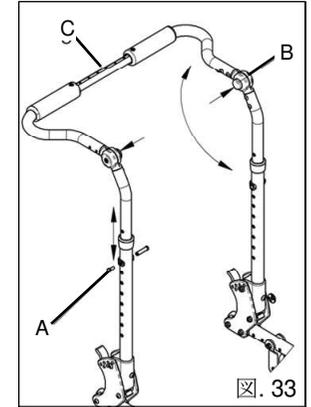


V. 車椅子のセットアップと使用

0. バックレスト

3. 高さの調整

- 車椅子に高さ調節可能なバックレストが装備されている場合は、10 mmレンチを使用して伸縮式のバックレストチューブの両方のネジ（図33：A）を取り外します。
- 上部チューブを上下に動かして、必要に応じて高さを設定します。
- ネジとナットを交換して、高さを設定します。

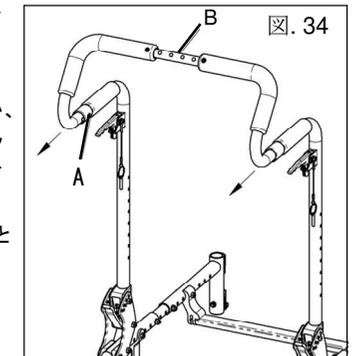


4. プッシュハンドルの角度調整

- 椅子に高さ調節可能なバックレストが装備されている場合は、ロックヒンジのボタンを押します（図33：B）。角度を調整するには、両方のボタンを同時に押す必要があります。
- ボタンを押しながら、プッシュハンドルを目的の位置まで回します。
- 目的の角度に達したらボタンを離します。
- プッシュハンドルを引き上げて、ヒンジがロックされていることを確認します。

5. 取り外し可能なストローラーハンドル

- 椅子の両側のボタン（図34：A）をストローラーチューブの下端に向かって押し、ロックタブを外します。
- ハンドルをレシーバーから引き出して取り外すか、ストローラーのハンドルをレシーバーに押し込んで取り付けます。最良の結果を得るには、両側を同時に挿入します。
- スナップボタンがレシーバーにかみ合っていることを確認します。



⚠ DANGER ⚠

危険: 高さ調整バックプッシュハンドル（図33：C）につながる中央支柱または、取り外し可能なストローラーハンドルのプッシュハンドル（図34：B）につながる中央支柱を保持して、車椅子を持ち上げたり傾けたりしないでください。これらの支柱が破損すると、落下または制御不能になり、重傷または死亡に至る可能性があります。

6. ダイナミックバック

- 車椅子と一緒に提供されるこの背部のための指示を参照してください。

V. 車椅子のセットアップと使用

P. リクライニング式バックレスト

▲ WARNING ▲

警告:バックレストの高さ、バックレストの角度、座席の深さ、傾斜角度、リクライニング角度、座席の高さ、後輪のサイズ・位置、フロントキャスターのサイズ・位置、およびアクセサリ、バックパック、酸素ボンベなどの、椅子の背部への重量はすべて車椅子の安定性に関連し、影響を与えます。上記の項目の1つ以上を調整または変更すると、車椅子の安定性が低下する可能性があります。上記の項目を変更するときは注意してください。バックレストの高さ、バックレストの角度、シートの深さ、シートの高さ、後輪のサイズ・位置、フロントキャスターのサイズ・位置を調整する場合は、資格のある技術者に相談してください。不適切な調整は、重傷を負う可能性があります。

リクライニングバック操作の為の注意点

1. システムを調整した後、すべての取り付けハードウェアがしっかりと締められていることを確認します。
2. 車椅子が完全にリクライニングした位置で安定していることを常に確認してください。
3. 車椅子に乗っているユーザーに最大限の安全性とセキュリティを確保するために、バックレストをリクライニングまたは傾ける（座る）前に、ユーザーを適切に配置することが重要です。
4. ユーザーの安全を最大限確保するために、リクライニングまたは傾斜している間は常にホイールロックを掛けてください。
5. リクライニングバックレストを使用する前に、使用中に車椅子が不安定にならないように、転倒防止装置が適切に調整されていることを確認してください。

▲ DANGER ▲

危険:水平を超えて車椅子をチルトやリクライニングすると、車椅子から落下する危険性が大幅に高まり、重傷または死亡につながる可能性があります。

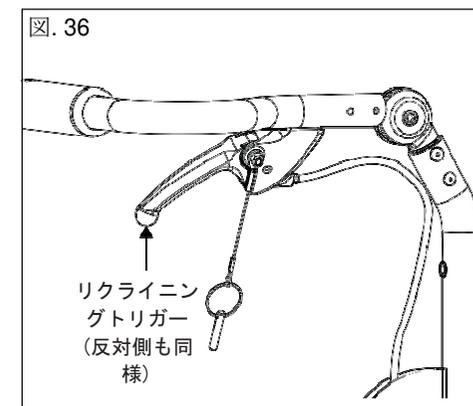
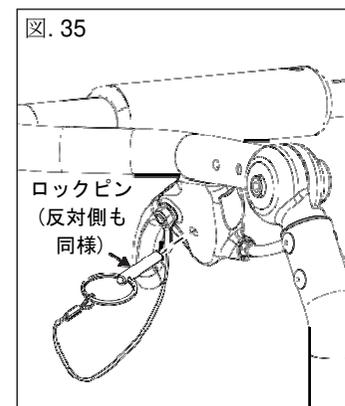
V. 車椅子のセットアップと使用

P. リクライニング式バックレスト

使用説明:

リクライニング / インクライニング:

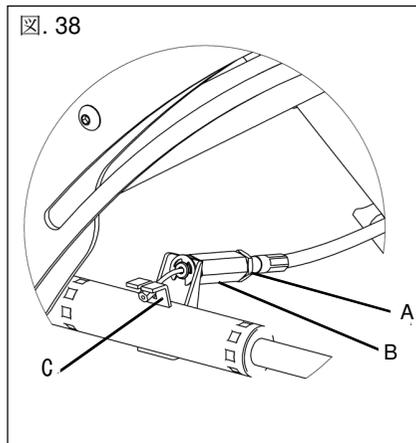
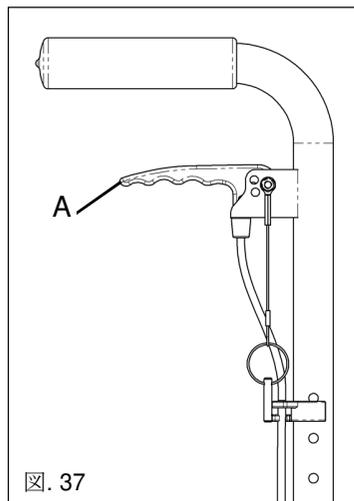
1. 各リクライニングトリガーのロック穴からロックピンを取り外して、リクライニングまたはインクライニング調整の前にシステムのロックを解除します（図:35）。
2. ホイールロックがかかっており、車椅子が平らな場所にあることを確認します。
3. ハンドルをしっかりと握り、両方のリクライニングトリガー（図:36）を同時にゆっくり握り、ガスシリンダーを解放します。これにより、次のようにバックレストの位置を調整できます。
 - a. リクライニング-ガススプリングに下向きの力を加えることにより、シートフレームに対するバックレストの角度を開き、リクライニングします。
 - b. インクライニング-上向きに力を加え、バックレストを車椅子の前方に押すことにより、直立位置に戻ります。
4. 必要なバックレストのリクライニング角度が達成されたら、両方のリクライニングトリガーをゆっくりと放します。
5. システムをロックするには、ロックピンをロックピンの穴に挿入します（図35）。患者の位置決めが完了したら、両方のリクライニング背もたれトリガーを常にロックすることをお勧めします。



V. 車椅子のセットアップと使用

Q. ハンドティルトメカニズム

1. ティルトシートフレーム
 - a. トリガー握ります。(図37:A)
 - b. トリガーを押し下げたまま、シートフレームを希望の位置まで回転させます。
 - c. トリガーを放して所定の位置にロックします。
2. ケーブルの調整
 - a. 10mmおよび3/8インチのオープンエンドレンチを使用して、ケーブルアジャスター本体(図38:B)からジャムナット(図38:A)のロックを解除します。
 - b. ケーブルのたるみがなくなるまで、またはメカロックレバー(図38:C)が完全に開いたままになるまで、アジャスター本体を内側または外側にひねります。
 - c. ケーブルの機能を確認します。メカロックは、トリガーを引いたときに自由にスライドし、トリガーを離れたときに完全にロックされます。
 - d. 適切な調整が得られたら、ジャムナットをアジャスター本体に締め付けてロックします。



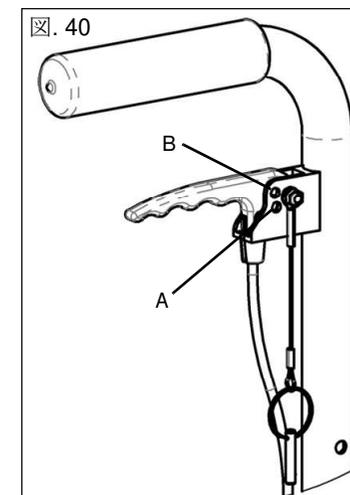
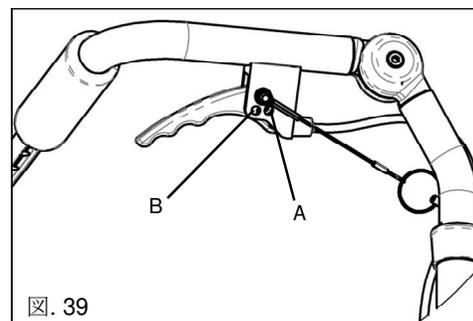
V. 車椅子のセットアップと使用

Q. ハンドティルトメカニズム

3. トリガーのロック
 - a. ロックまたはロック解除位置でトリガーを固定するためのピンがあります。:
 - a. 図39と図40をチェックして、椅子にどのスタイルのバックケインとトリガーが提供されたかを判断します。
 - b. バックハンドルを押して、椅子がロックされていることを確認します。
 - c. ひもでトリガーに取り付けられたピンを穴に挿入します(図39:A及び40:A)。
 - d. トリガーをそっと握って、バックケインを押しして車椅子を傾け、トリガーがチルトロックを解除しないことを確認します。

トリガーをロック解除位置に固定するには:

- a. 図39および図40をチェックして、車椅子にどのスタイルのバックケインとトリガーが提供されたかを判断します。
- b. バックケインを持ち、傾斜位置を制御しながら、トリガーを握って傾斜機構のロックを解除します。
- c. 安定した位置に収まるまで、シートフレームを傾けます。
- d. ひもでトリガーに取り付けられたピンを穴に挿入します(図39:B及び40:B)。



⚠ WARNING ⚠

警告:トリガーがロック解除位置に固定された状態で、誰かを椅子に座ったままにしないでください。これは、車椅子に座っている人に重傷を負わせる可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

R. フットティルトメカニズム

1. ティルトシートフレーム

- フットティルトペダルを押します(図41:A)。
- ペダルを踏み込んだまま、シートフレームを希望の位置に傾けます。
- ペダルを放して所定の位置にロックします。

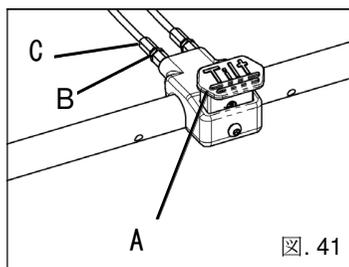


図. 41

2. ケーブルの調整

- 2つの10mmレンチを使用して、ジャムナット(図41:B)を緩め、アジャスター(図41:C)を所定の位置に保持します。反対のケーブルについても繰り返します。
- 必要な張力が得られるまでアジャスターを回してケーブルを調整し、アクチュエーターがオンになるようにします。ペダルが放されている間、メカロックはまったく作動していません。ペダルを踏み込んだときにメカロックが自由にスライドすることを確認してください。
- 希望の張力が得られたら、レンチでアジャスターを保持し、ジャムナットを締めます。両方のケーブルについて繰り返します。

S. ティルトストップ

1. ティルトストップの調整

- ティルトストップからネジを取り外し、メカロックのシャフトに取り付けます。ネジを再度取り付けますが、締めないでください(図42:A)。反対のメカロックについても繰り返します。
- 椅子の傾きを制限したい角度に設定します。
- 後方への傾きを制限するには、ティルトストップをメカロックボディの底までスライドさせ、所定の位置に締めます。
- 前方への傾斜を制限するには、メカロックの本体の上に傾斜止めを配置します(図42:B)。希望の角度に達したら、ティルトストップをメカロックボディの上部に対してスライドさせて締めます。
- 両方のティルトストップがそれぞれのメカロックに同時に当たるようにします。

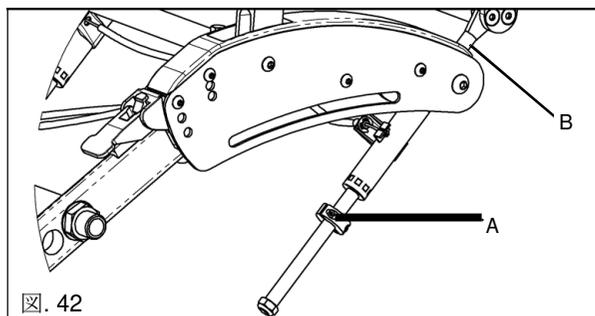


図. 42

V. 車椅子のセットアップと使用

T. シートフレームの調整

1. シートの奥行の調整

- 4mm六角レンチと10mmレンチを使用し、フレームからシートパンを外します(セクションCC参照)。座奥が偶数の場合2" (5.08 cm)以上、奇数の場合1" (2.54 cm)以上延ばす場合、新しいシートパンが必要です。カスタマーサービスにお問い合わせください。
- 4mm六角レンチと10mmレンチを使用し、椅子の両側からボタンヘッドネジ(図43:A、B、C)を取り外します。
- 必要に応じて、フロントシートチューブを内側または外側にスライドさせます。それぞれのフロントシートチューブの図43の表に示すように、ネジBを適切な位置に取り付けます。ネジ・ナットを締めないでください。
- 表に示されている位置で、シートフレームをヨークに固定します。ネジAを交換しますが、ネジ・ナットを締めないでください。
- メカロックMountを表に示されている位置に固定します。ネジCを交換します。ネジ・ナットを締めないでください。
- 車椅子の両側で繰り返します。すべてのネジを取り付けたら、ネジ・ナットを締めます。



WARNING



警告:ネジAからネジCまでの距離は常に9インチ(22.86 cm)になるよう設定してください。異なる値に設定すると、車椅子が損傷する可能性があります。

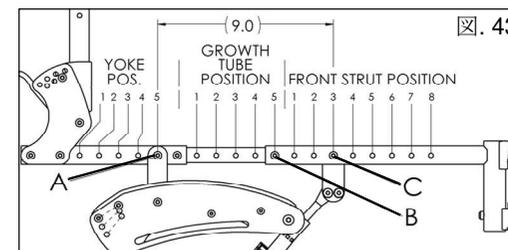


図. 43

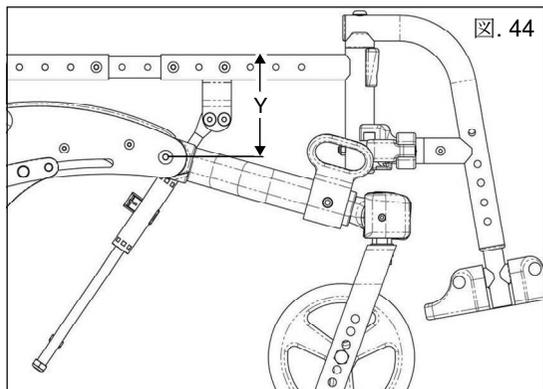
フロントフレームサイズ	座奥行	YOKE POS.	GROWTH TUBE POS.	FRONT STRUT POS.
SHORT	12	1	1	3
	13	1	2	2
	14	2	3	2
	15	2	4	1
	16	3	5	1
MED	14	2	1	4
	15	2	2	3
	16	3	3	3
	17	3	4	2
	18	4	5	2
LONG	16	3	1	5
	17	3	2	4
	18	4	3	4
	19	4	4	3
	20	5	5	3

V. 車椅子のセットアップと使用

T. シートフレームの調整

シートフレームのセットアップの有効性を確認します(図44)。

4輪すべてを平らな面に置いて車椅子を設置し、可能であれば水平器を使用し、座席を水平な位置に設定します。寸法Yは、フロントキャスターアームのピボットボルトの中心からシートチューブの上部までの垂直距離で、4~5インチ(10.16~12.7 cm)の間でなければなりません。4" (10.16 cm) 未満の場合、寸法Yが4~5インチ(10.16~12.7 cm)に収まるまで後座高を上げるか、前座高を下げます。



5" (12.7 cm) 以上の場合、寸法Yが4~5インチ(10.16~12.7 cm)になるまで、後座高を下げるか上げるか、前座高を上げる必要があります。オプションで、寸法Yは5" (12.7 cm) を超えることができますが、それに応じてチルト範囲が縮小されます。セットアップが完了したらキャスターが正方形になるようにします。

U. キャスター

1. キャスターアームの位置の調整

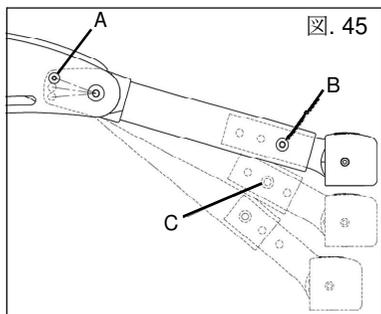
a. 4mmの六角レンチ(トランジットが取り付けられている場合は5mm)と10mmのレンチを使用して、ネジ(図45:B)を取り外し、必要に応じてキャスターエクステンションを出し入れします。

b. ネジとナットを交換して締めます。椅子の反対側についても繰り返します。

2. キャスターアーム角度の調整

a. 3mmのアレンレンチと10mmのレンチを使用して、対応するファスナーのネジ(図45:A)を取り外し、キャスターアームを希望の位置に回転させます。

b. ネジと留め具を交換して締めます。椅子の反対側についても繰り返します。



注: 必要に応じて、キャスターアームの角度を大きくしながらキャスターの延長部分を延長することにより、ホイールベースをほとんど変更せずに高さ調整を変更できます(例: 図45:B及びC)。



危険: 上記の指示に従わない場合、使用中に車椅子が前方に倒れ、転倒または制御不能になり、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。

V. 車椅子のセットアップと使用

U. キャスター

3. キャスター高さ調整

a. 13mmレンチを使用して六角ボルト(図46:A)とナットを取り外します。

b. キャスターホイール(図46:B)とスペーサー(図46:C)を取り外します。

c. キャスターフォークの片側の希望する穴に六角ボルトを通します。

d. 1つのスペーサーを六角ボルトの上にスライドさせます。

e. キャスターホイールを六角ボルトの上にスライドさせ、キャスターホイールを通して六角ボルトを押し、キャスターホイールベアリングの反対側と同じ高さにします。

f. 2つ目のスペーサーをキャスターホイールとキャスターフォークの間にスライドさせ、スペーサーをベアリングの穴に合わせます。

g. スペーサーを介して六角ボルトを押し込み、キャスターフォークの反対側に穴を開けます

h. 六角ボルトをナットで締め直します。

i. 椅子の反対側についても繰り返します。両方のキャスターが同じように設定されていることを確認してください。

4. キャスターシステム角度調整

a. 椅子を平らで硬い面に置きます。

b. 4mmの六角レンチを使用して、ネジ(図47:A)とキャスターカバープレート(図47:B)を取り外します。

c. センターキャスターのバレルネジ(図47:C)を約1-2回転緩めます。外さないでください。

d. 図のように、キャスターフォークを外側に回転させます(図:47)。

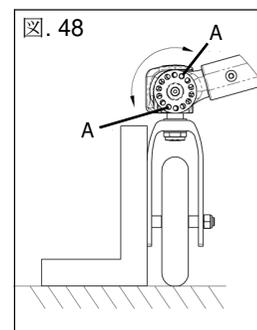
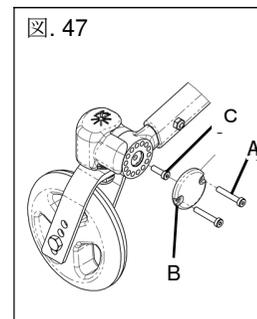
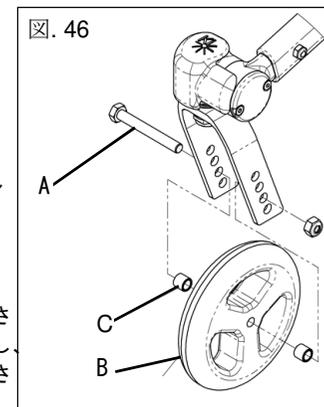
e. スクエアを使用して、キャスターフォークを垂直に合わせます(図:48)。

f. ネジ(図47:A)を、キャスターフォークのスクエアに最も近い位置にある一対の穴にねじ込みます。図48では、穴「A」が最も近いです。設定によって異なる穴が使用される場合があります。

g. 中央のネジを締めます。

h. ネジ(図47:A)を取り外し、ネジの下にあるカバー(図47:B)を取り付けます。

i. 椅子の反対側についても繰り返します。



V. 車椅子のセットアップと使用

V.アクスルアーム

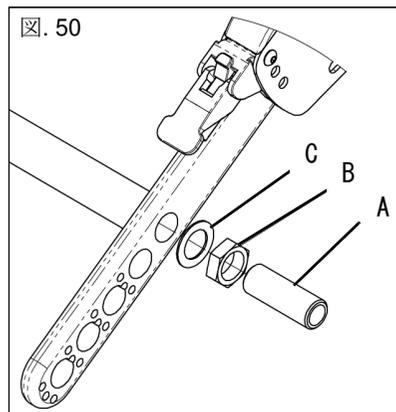
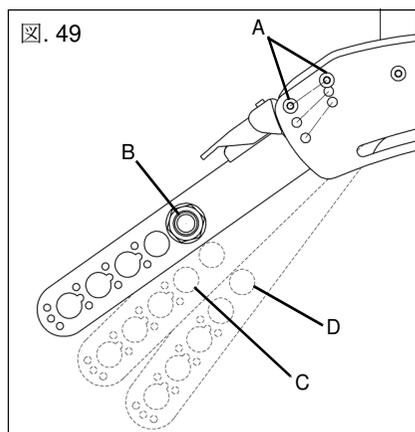
1. 車軸アームの角度調整

- フレームの両側にある止めネジを見つけます(図49:A)。
- M3六角レンチを使用して、フレームの両側の止めネジを緩めます。外さないでください。
- フットレストチューブを上下に調整して、希望の高さを実現します(図49:B)。
- 両側が等しく調整されていることを確認します。

2. 車軸チューブの位置の調整

- 24mmレンチを使用して、車軸スリーブナット(図50:B)、車軸スリーブ(図50:A)、およびワッシャー(図50:C)を取り外します。車椅子の反対側も繰り返します。
- 車軸チューブを車軸プレートの目的の穴に合わせます。
- 車軸スリーブをナットとワッシャーに交換し、車軸チューブの位置が椅子の両側で同じになるようにします。
- 車椅子の反対側についても繰り返し、車軸バーの角度が椅子の両側で同じになるようにします。

注:シートの高さの変更は、車軸チューブの位置とともに車軸アームの角度を同時に変更することにより、ホイールベースをほとんど変更することなく実現できます(図49、例として位置B及びCを参照)。同様に、ホイールベースはシートの高さをほとんど変化させずに変更できます(図49、例として位置C及びDを参照)。

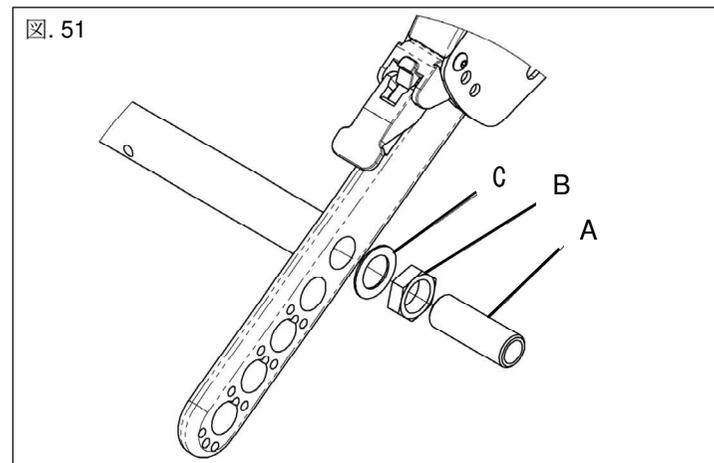


V. 車椅子のセットアップと使用

V.アクスルアーム

3. 車軸間隔の調整

- 24mmレンチを使用して、車軸スリーブナット(図51:B)を緩めます。
- 希望のホイール間隔を実現するために、車軸チューブに車軸スリーブをねじ込みます。
- 車軸スリーブナットを締め直します。
- 椅子の両側の車軸間隔が同じであることを確認してください。
- 車軸スリーブナットを締め直します。



⚠ DANGER ⚠

危険:軸の位置を前方に調節しすぎると、車椅子が後方にひっくり返り、転倒したり、コントロールを失い、重傷や死亡を引き起こす可能性があります。

⚠ WARNING ⚠

警告:バックレストの角度を大きくすると、車椅子の重心が変わります。車椅子の安定性を維持するために、車軸の位置が適切に調整されていることを確認してください。セクションV:車軸アームの「車軸アーム位置」の参照。

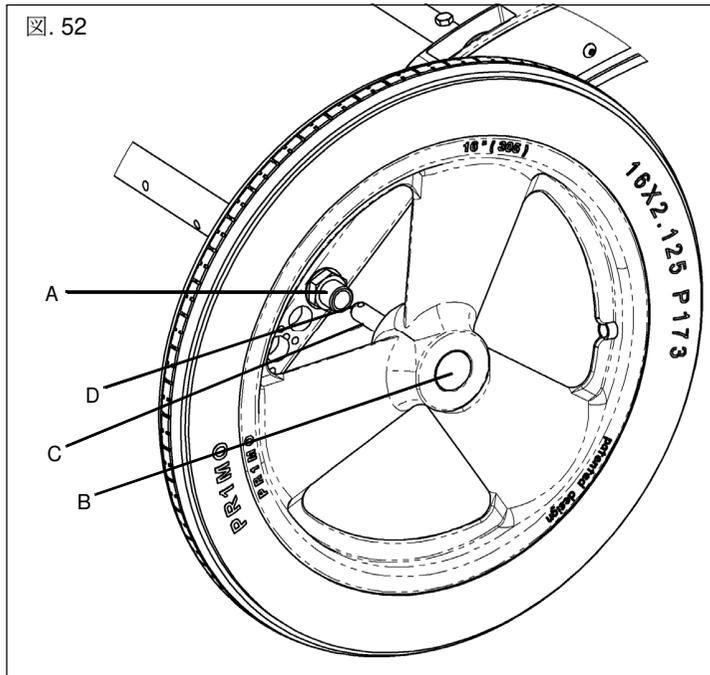
V. 車椅子のセットアップと使用

W. リアホイール

1. ホイールの取付

車椅子の車軸がクイックリリースボタン式であるかどうかを確認し(図52:B)、ボタン式の場合は次の手順に進みます。ねじ式が使用されている場合、クイックリリースボタンではなくボルトヘッドがあります。ねじ式車軸ホイールは取り外しできないように設計されているため、次の手順は適用されません。

- a. 車軸(図52:C)のクイックリリースボタン(図52:B)を押して、ロックボール(図52:D)を後退させます。車軸リリースボタンの伸長位置と押し下げ位置の違いと、車軸の端にあるロックボールへの影響に注意してください。
- b. クイックリリースボタンをもう一度押し、車軸を車軸スリーブにスライドさせます(図52:A)。
- c. ボタンを放して、軸をスリーブにロックします。リリースボタンが完全に伸びず、ボタンを離れた後にロックボールがロック位置に移動しない場合、軸の長さを調整する必要があります。



V. 車椅子のセットアップと使用

W. リアホイール

2. 軸の調整

- a. 車軸を調整するには、外側の車軸ナットを回すための19mmレンチが必要です。
- b. また、車軸の反対側の端にボールベアリングを保持し、車軸が回転するのを防ぐために、11mmレンチが必要になります。
- c. ホイールを取り付けたときに、車軸がロックしない場合は、ロックされるまで車軸ナットを緩め、ロックすると車軸がわずかに出入りできるようにします。車軸はロックされているが、わずかに出入りする場合は、次の手順に進みます。
- d. 軸ナットをきつくなるまで反時計回りに回し、軸ナットを時計回りに一度に1/3回転させます。1/3回転するたびに適切に調整されているかどうかを確認してください。適切に調整された場合、スリーブ内での車軸の知覚可能なガタつきはなく、車軸リリースボタンは押し込みやすい状態になります。

3. ホイールの取り外し

- a. 車軸の外側の端にあるボタンを押し込みます。
- b. ボタンを押したまま、ホイールと車軸を車軸スリーブから引き出します。



危険: 車椅子を操作する前に、プッシュボタンが完全に伸び、椅子の内側のロックボールが完全にかみ合っていることを確認してください。そうしないと、ホイールが脱落し、重傷または死亡の原因となる場合があります。

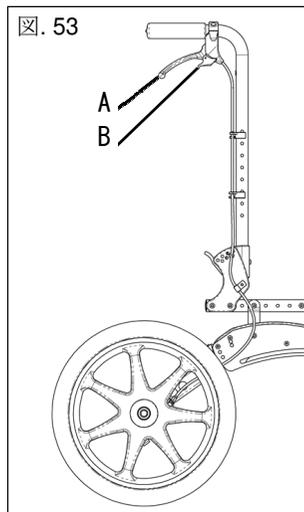
車軸調整を試みる前に、「セクションW. 後輪の取り付けと取り外し」を確認してください！

V. 車椅子のセットアップと使用

X. ドラムブレーキ

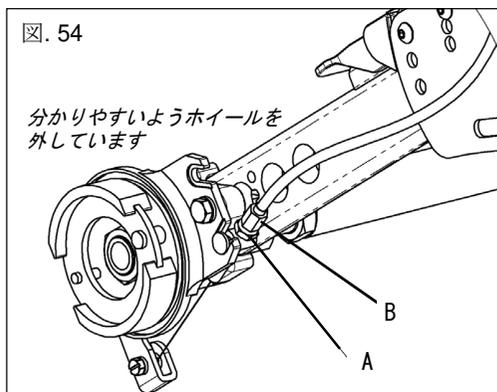
1. ブレーキ操作

- 椅子の両側にあるブレーキレバー(図53:A)を握り、ブレーキを作動させます。左右でそれぞれ独立して操作でき、強く握ると強くブレーキがかかり、弱く握ると弱くかかります。
- ブレーキレバーを放して、ブレーキを解除します。
- パーキングブレーキ機能を使用するには、各ブレーキレバーを握ったままの状態、人差し指でロックレバー(図53:B)をレバーマウントの歯に押し込みます。ロックレバーを押し下げている間、リリースブレーキハンドルとパーキングブレーキは作動したままです。
- パーキングブレーキを解除するには、バネ式ロックレバーがカチッと音がするまでブレーキレバーを押し込みます。ブレーキを解除するには、ブレーキレバーを放します。



2. ブレーキ調整

- 10mmレンチを使用して、アジャスター(図54:B)のジャムナット(図54:A)のロックを解除します。アジャスターを緩めてブレーキ操作を強化するか、アジャスターをねじ込んで制動動作を減らします。
- 回転時にホイールにわずかな抵抗が生じるまで、ブレーキを調整することをお勧めします。次に、アジャスターを約1/2回転、または回転ホイールからすべての抵抗を取り除くために必要なものを内側に回します。
- ジャムナットを締め直して、調整を固定します。反対側についても繰り返します。

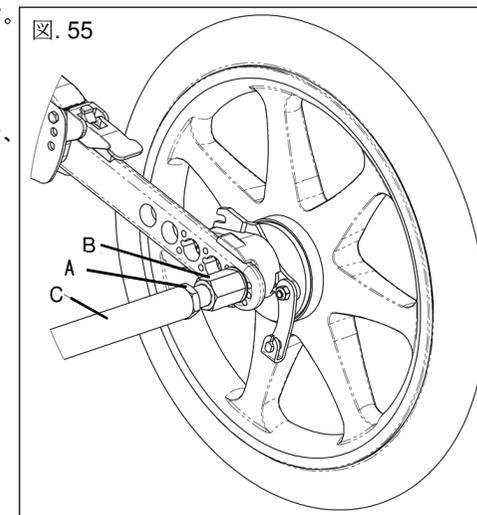


V. 車椅子のセットアップと使用

X. ドラムブレーキ

3. 車軸スリーブの位置調整

- 両方のホイールを取り外します。24mmレンチを使用して、ジャムナット(図55:A)を緩め、ストラットアダプターのねじ山の無い部分(図55:B)に完全にねじ込みます。反対側についても繰り返します。
- 24mmレンチを使用して、ストラットアダプターを緩め、ストラットに完全にねじ込みます(図55:C)。これにより、ブレーキアセンブリの車軸スリーブからねじが外されます。反対側についても繰り返します。
- ワッシャーを取り外し、ブレーキアセンブリを新しい位置に移動して、ワッシャーを交換します。
- ブレーキアセンブリを車軸プレートの外側に固定した状態で、ストラットアダプターを椅子の両側にある車軸スリーブに再装着します。軸プレートを外側または内側に無理にねじ込まないでください。ストラットアダプターの端と車軸スリーブの間に隙間がある場合、スリーブに合うようにアダプターを外側に通します(もう一度、ブレーキアセンブリが車軸プレートに取り付けられていることを確認してください)-車軸プレートを内側に無理に押し込まないでください。アダプターと車軸スリーブの間に干渉がある場合は、軸プレートを外側に曲げずにねじを開始できるまで、アダプターをストラットチューブにさらにねじ込みます。
- ストラットアダプターを締めます。ストラットは車軸プレート間の中央に配置する必要があります。ストラットは、ストラットアダプターのいずれかの方向にねじ込んで、アダプターを締めた後にストラットを中心に置くことができます。車椅子を広げたときにフットペダルがほぼ水平になるように、ストラットの向きを確認します。
- ストラットは、車軸プレートを外側に押し付けたり、締め付けたときに内側に引っ張ったりしないでください。車軸プレートの折り畳みが適切に機能することを確認してください。
- 車軸スリーブの位置を変更した後、ケーブルを調整する必要がある場合があります。



注: ドラムブレーキオプションでは、車軸スリーブの間隔を調整できません。

V. 車椅子のセットアップと使用

Y. 押し掛け/引き掛けブレーキ

1. 調整

- 標準の車軸プレートの場合、10 mmレンチまたはソケットを使用して六角ボルトを緩めます(外さないでください)(図56:F)。自走式車軸プレートには、ソケットヘッドのキャップネジを緩めるための5mm六角レンチが必要です(図57)。
- 適切にロックするには、マウント(図56:J)を前後にスライドさせます。
- ネジを完全に取り外し、スライドナット(図56:G)を別の穴(A&BまたはB&C)に取り付けて、調整範囲を最適化できます。スライドナットのネジ穴は、穴AまたはBのいずれかに配置することをお勧めします。
- ボルトを締め直します。椅子の反対側についても繰り返します。

2. リバースホイールロックマウント(標準車軸プレートのみ)

- 10mmレンチまたはソケットを使用して、六角ボルト(図56:F)を完全に取り外し、ホイールロックアセンブリを椅子から取り外します。
- 10mmレンチまたはソケットを使用して、ホイールロックスタッドからナットとワッシャー(図56:H)を取り外し、マウントからホイールロック(図56:I)を取り外します。
- マウントを反転し、ホイールロックを再度組み立ててマウントします。ホイールロックを穴DまたはEに取り付けて、ホイールロックを最適な位置に配置できます。
- ホイールロックをサイドフレームとスライドナットに再び取り付けます(図56:G)。調整範囲を最適化するために、スライドナットを穴AとBまたはBとCに配置できるようにしてください。スライドナットのネジ穴を穴AまたはBに配置することをお勧めします。
- ホイールロックの調整手順については、上記の1. 調整を参照してください。
- 椅子の反対側についても繰り返します。ホイールロックが椅子の両側で同じ向きになっていることを確認します。

注:一度に少しずつ緩めたり締めたりしながら、2本のボルトを交互に使用して、ホイールのハードウェアを常に緩めて締めます。これにより、1セットのハードウェアでのオーバークランプが防止され、ファスナのバインドと増加につながります。

図. 56

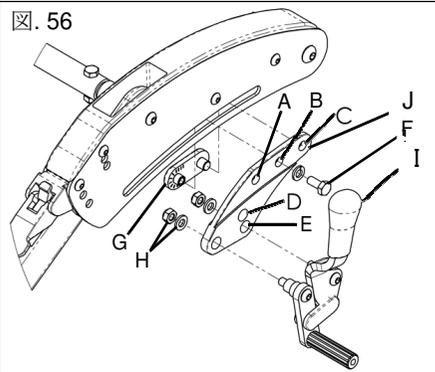
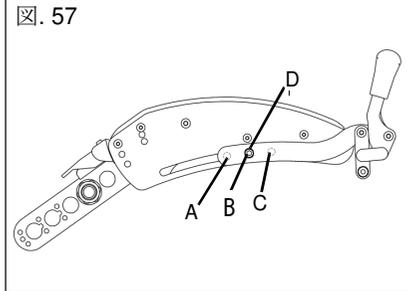


図. 57

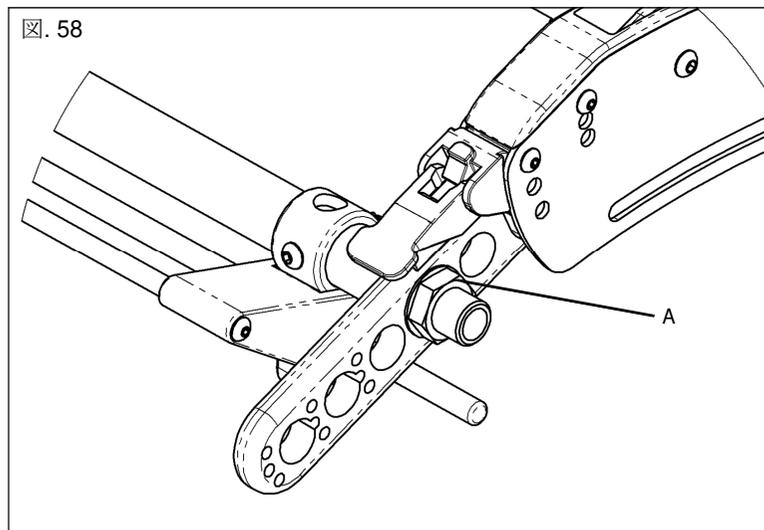


V. 車椅子のセットアップと使用

Z. 介助者用フットブレーキ(ハブロック)

- 車椅子から両方の車輪を取り外します(セクションWを参照)。
- 24mmレンチを使用して、両方の車軸スリーブナットを緩めます(ただし、取り外しません)(図58:A)。
- 車軸チューブを希望の角度にひねります。フットティルトが取り付けられている場合、フットペダルに大きな変更を加えることは推奨されません。フットペダルに大きな変更を加えると、フットティルトに接続されたケーブルに過度のストレスがかかる可能性があります。
- ナットを締め直し、ホイールを交換します。
- 保管のためにリアフレームが適切に折りたたまれていることを確認します。

図. 58

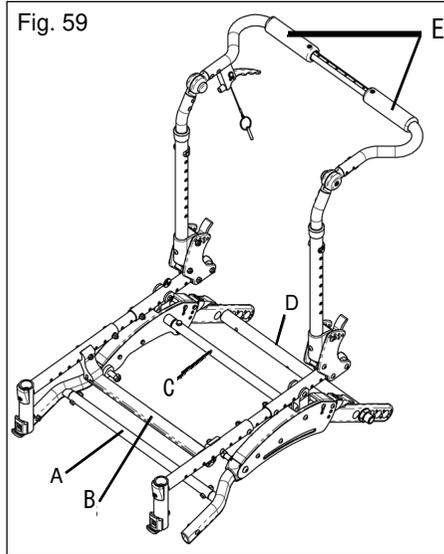


V. 車椅子のセットアップと使用

AA. フレーム幅

1. フレーム幅の調整

- バックレストと座席を取り外します。シートパンが取り付けられている場合、新しいシート幅に新しいシートパンが必要になります。カスタマーサービスにお問い合わせください。
- すべてのクロスストラット(フロントフレームストラット(図59:A)、シートフレームストラット(図59:B)、リアフレームストラット(図59:C)、車軸ストラット(図59:D))を取り付けているネジを取り外します。
- 高さ調整可能なバックストラットのネジを取り外します。14インチ未満の幅から16インチを超える幅に調整する場合、新しいプッシュハンドルが必要になります。カスタマーサービスにお問い合わせください。
- 新しいシート幅に合わせて新しいストラットを取り付け、すべてのナットとボルトを指で締めます。リアフレームストラットはフロントフレームストラットと同じで、3インチ(7.62 cm)だけ短いことに注意してください。
- 椅子を平らで硬い面に置きます。4つのホイールすべてが表面に接触した状態で、すべてのストラットネジを締め直します。
- ティルト機能がスムーズか確認します。

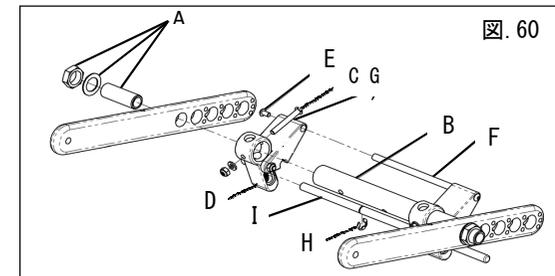


V. 車椅子のセットアップと使用

AA. フレーム幅

2. 介助者用フットブレーキの幅調整

- 両方のホイールを取り外します。ナットから車軸スリーブがどれだけ突き出ているかに注意してください。24mmレンチを使用して、車軸チューブ(図60:B)から車軸スリーブ、ワッシャー、ナット(図60:A)を取り外します。反対側も同様に実施します。
- 車軸チューブを取り外し、アセンブリを車椅子からロックします。4mmの六角レンチと10mmのレンチを使用して、ロッドガイド(図60:D)からネジ(図60:C)を取り外します。反対側も同様に実施します。
- 2本の3mm六角レンチを使用して、車椅子の片側のネジ(図60:E)を押さえながら、車椅子の反対側の対応するネジを取り外します。
- リンクロッド(図60:F)をロッドレバー(図60:G)から引き出します。リンクロッドからのネジを取り外します。
- Eリングが露出するまで、ロッドガイドとロッドレバーを外側にスライドさせます(図60:H)。ペンチを使用し、Eリング(図60:H)をロックロッド(図60:I)から取り外します。反対側も同様に実施します。
- 新しいロックロッドを古いロックロッド(端から端まで)に合わせ、新しいロッドロッドから古いロックロッドを押し出し、ロッドガイド内のスプリングを所定の位置に保ち、新しいロッドをスプリングの上に保持します。必要に応じて、新しいスロットを挿入するときにスプリングを圧縮したままにするために、エンドスロットにマイナスドライバーを使用します。椅子の反対側にあるロッドガイドに新しいロッドを挿入し続け、再び新しいロッドの下にスプリングが残っていることを確認します。新しいロッドを所定の位置に配置する前にスプリングが滑って伸びる場合は、マイナスドライバーを使用して、ロッドガイドのサイドスロットからスプリングを引き込みます。
- 新しいロックロッドのEリング溝の外側にロッドガイドとロッドレバーを配置し、Eリングを再度取り付け、Eリングに対しロッドガイド/ロッドレバーを挿入します。
- 新しいリンクロッドをロッドレバーに通し、2本の3mmアレンレンチを使用してネジ(図60:E)で再度取り付けます。
- ロッドガイドの穴を車軸チューブの十字穴に合わせて、ネジを再度取り付けます(図60:C)。
- 車椅子の残りの部分の幅を調整した後(セクションAAを参照)、再組み立てした車軸チューブアセンブリを車軸プレート間でスライドさせ、ワッシャーとナットで車軸スリーブを再び取り付けます。車軸が車椅子の両側で同じ量だけ突出し、ステップ1で取り外す前と同じ距離にあることを確認します。
- ホイールを取り付け、機能を確認します。



V. 車椅子のセットアップと使用

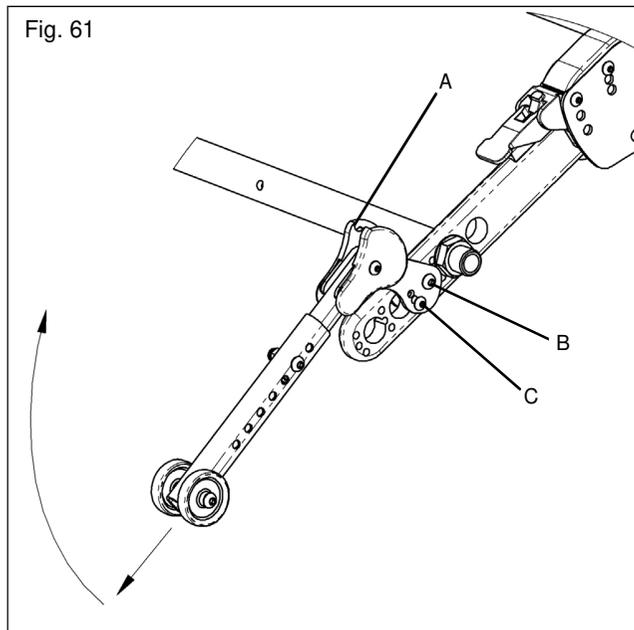
BB. 転倒防止装置

1. 転倒防止装置の解除

- 図61に示すように、アンチチューブを調整チューブと平行に引き下げ、上に回転させます。
- 転倒防止装置は、ブレーキのナビゲーションのために浮いたままにすることも、戻り止めまで完全に回転させて(図61:A)保持することもできます。
- 再係合するには、転倒防止のためにアンチティップを持ち上げて(戻り止めに係合している場合)、下方に押しして所定の位置に再度ラッチします。

2. 転倒防止装置の取り外し

- 4mmの六角レンチと10mmのレンチまたはソケットを使用して、ピボットネジとナットを取り外します(図61:B)。
- 3mmの六角レンチと8mmのレンチまたはソケットを使用して、角度調整ネジとナットを取り外します(図61:C)。
- 車軸プレートからアンチティップブッシングと一緒に車椅子からアンチティップを取り外します。
- 将来使用するまで部品を紛失しないよう、ネジとナットをブッシングで組み立て直します。



V. 車椅子のセットアップと使用

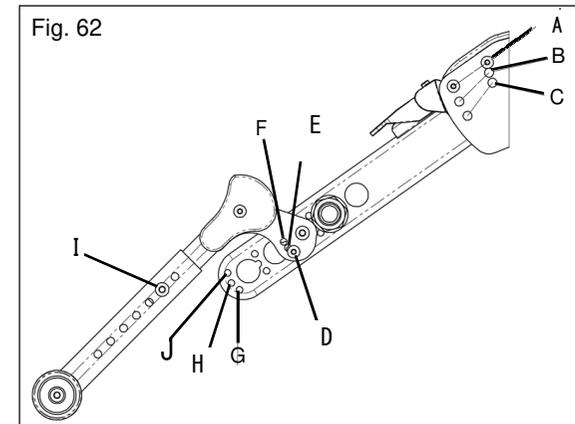
BB. 転倒防止装置

3. 転倒防止装置の角度調整

- ほとんどの場合、転倒防止装置の角度は車軸プレートの角度と関連しています。
- 3mmの六角レンチと8mmのレンチまたはソケットを使用して、角度調整ネジとナットを取り外します(図61:C)。
- 図62を参照してください。車軸バーの角度が位置Aにあるとき、アンチティップの穴Dは車軸プレートの穴Gに合わせてください。わかりやすくするため、車軸プレートが一番端の穴に穴G、H、Jのラベルが付けられていることに注意してください。
- 同様に、車軸プレート位置Bの場合、アンチティップの穴Eは車軸プレートの穴Hと一致し、車軸プレート位置Cの転倒防止の穴Fは車軸プレートの穴Jと一致する必要があります。
- ネジとナットを締め直した後、椅子の反対側で同じ作業を繰り返します。

4. 転倒防止装置の高さ調整

- 4mmの六角レンチと10mmのレンチまたはソケットを使用して、延長ネジとナットを取り外します(図62:I)。
- 延長チューブの穴を転倒防止穴に合わせて、床と転倒防止ホイールの底の間に1.5"から2" (3.81-5.08 cm) の隙間ができるようにします。
- 延長ネジとナットを締め直し、椅子の反対側も繰り返します。両方の転倒防止装置が同じように設定されていることを確認してください。



V. 車椅子のセットアップと使用

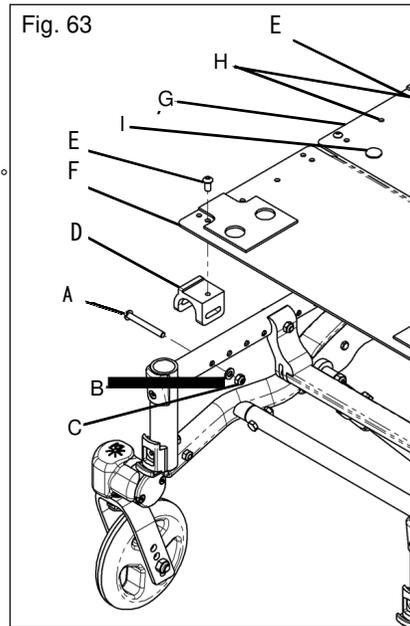
CC. シートパン

1. 取り外し

- 4mmの六角レンチと10mmのレンチまたはソケットを使用して、4つすべてのシートパンブラケット(図63:A)、ワッシャー(図63:B)、およびナット(図63:C)をすべて取り外します(図. 63:D)。
- 車椅子からシートパン全体を持ち上げます。

2. 取り付け

- シートパンネジ(図63:E)を使用して、シートパンブラケット(図63:D)をフロントシートパン(図63:F)に取り付けます。シートパンの最前面の穴を使用します。反対側についても繰り返します。
- シートパンネジ(図63:E)を使用して、シートパンブラケットを後部シートパン(図63:G)に取り付けます。シートフレームヨークとの干渉を避けるため、後部シートパンに異なるシートパン穴(図63:H)を使用できます(セクションT: シートフレームのセットアップ—図43:A)。
- シートパンをシートフレームに置き、キャリッジボルト(図63:I)とナットを手で締めます。
- シートパンを希望の位置に設定したら、キャリッジボルトナットを締めます。
- シートパンブラケットのネジ(図63:A)を取り付けます。4つのシートパンブラケットすべてにワッシャー(図63:B)およびナット(図63:C)。



3. 長さ調整

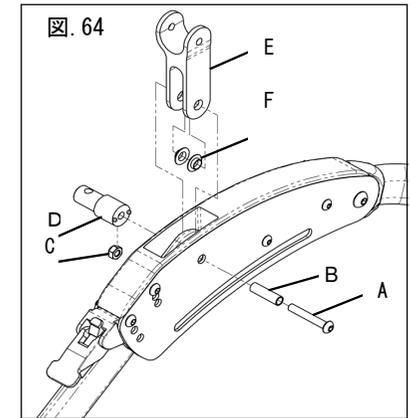
- 車椅子のフレームの深さを調整するときは、キャリッジボルトナット(図63:I)を外さないよう緩めます。
- フレームの深さに応じてシートパンを前後にスライドさせ、キャリッジボルトナットを締め直します。
- 新しいシートフレームの奥行きに合わせてシートパンの長さを調整できない場合は、新しいフロントシートパンまたはリアシートパン、あるいはその両方が必要になります。カスタマーサービスに連絡してください。

V. 車椅子のセットアップと使用

DD. ブッシング

1. ブッシングの交換(この手順は資格のある技術者が実行することを推奨します)。

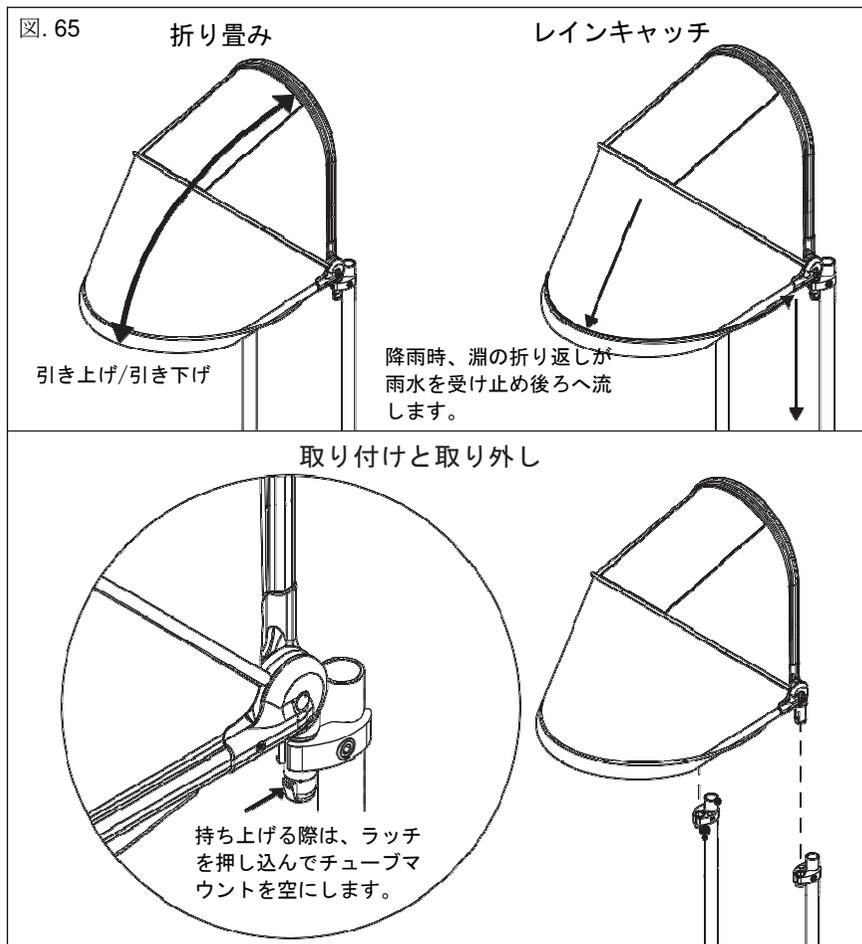
- ヨークがシートフレームのどの穴に合っているか注意してください。4mmの六角レンチと10mmのレンチまたはソケットを使用し、椅子の両側のヨーク(図64:E)にシートフレームを固定しているネジとナットを取り外し、シートを前に倒します。
- 4mmの六角レンチを使用し、ピボットネジ(図64:A)とピボットスリーブ(図64:B)を取り外します。ナット(図64:C)がリアフレームストラットマウント(図64:D)のポケットから落ちることに注意してください。失くさないようナットを安全な場所に保管してください。
- ヨーク(図64:E)を慎重にスライドさせ、ベースフレームから外します。
- ヨークの脚から古いブッシング(図64:F)を外します。ブッシングは脚の外側から押し込む構造です。古いブッシングをすべて外し、穴が滑らかであることを確認してください。
- ブッシングがすり減っている場合、またはヨークに適切な機能を妨げるその他の損傷がある場合は、交換用ヨークが必要です。カスタマーサービスに連絡してください。
- ヨークの脚の間に新しいブッシングを取り付けます。新しいブッシングに損傷を与えないように注意し、ナイフの刃等薄くて平らな硬い物体の側面を使用し、ブッシングを押し込むと役立つ場合があります。指では取り付け中にブッシングが曲がり、損傷する可能性があるため推奨されません。ブッシングがまっすぐに取り付けられていることを確認してください。それらの取り付け時に過度な力を使用しないでください。ブッシングをまっすぐに押すのに必要な力はごくわずかです。終了したら、ブッシングのフランジがヨーク脚の内側に対して平らになっているはずですが、交換用ヨークが必要です。
- ヨークの脚が車軸プレートにまたがるベースフレームプレートの上に新しいブッシング付のヨークを挿入します。ヨークの平面側が椅子の外側に面するようご注意ください。
- ベースフレームプレート、ヨーク、アクスルバーの穴を合わせ、ピボットスリーブを取り付けます。取り付けを簡単にするため、細いドライバーなどの長くて丸い物を使用し、穴を事前に調整しておくとう役立つ場合があります。スリーブを無理に押し込まないでください。ブッシングを含む1つ以上のコンポーネントが損傷する可能性があります。
- ピボットねじ(図64:A)をスリーブに通します。リアフレームストラットマウント(図64:D)のポケットにナット(図64:C)を保持しながら、ナットにねじ込んで締め、ストラットマウントの面の小さなペグが内側ベースフレームプレートの穴に合うようにします。
- 車椅子の反対側についても繰り返します。
- 以前と同じ位置にシートフレームを再度取り付けます。フロントストラットマウントネジ(セクションT:図43:C)マウントとヨークマウントネジ(セクションT:図43:A)の間の距離は9" (22.86 cm) でなければなりません(セクションT:シートフレームのセットアップを参照)。チェックして、スムーズなティルト操作を確認します。



V. 車椅子のセットアップと使用

EE. キャンopies

1. 折りたたみ (図:65)
 - a. 閉じる-キャンopiesの前端を持ち上げ、フロントエンドを後ろ端まで持ち、キャンopiesを邪魔にならないように折ります。
 - b. 開く-フロントエンドを取り、キャンopiesが完全に伸びるまで引き出します。
2. 簡単な取り外しおよび簡単な取り付け (図:65)
 - a. キャンopiesの両側のラッチを押し込み、持ち上げてレシーバーから取り出します。
 - b. キャンopiesを再び取り付けるには、ラッチがチューブマウントクランプの底部に引っかかるまでレシーバーに両端を取り付け、所定の位置に「ロック」します。
3. レインキャッチ (図:65)
 - a. キャンopiesの端は折りたたまれて、車椅子の使用者から雨をキャッチします。



VI. メンテナンス

A. 車椅子の点検

日常かつ定期的なメンテナンスにより、車椅子の寿命が延び、パフォーマンスが向上します。車椅子の修理と部品の交換は、Ki Mobility認定サプライヤーまたは資格のある技術者が行う必要があります。

1. 一般検査:
 - a. 少なくとも月に一度は椅子を掃除してください。職場などの汚れた環境で操作する場合は、椅子をより頻繁に掃除する必要があります。
 - b. すべての留め具が締まっていることを確認してください。特に明記されていない限り、締め付けトルクは40インチ/ポンド(4.52 N * m)です。
 - c. タイヤとキャスターの点検
 - タイヤのトレッド摩耗を確認します。タイヤにフラットスポット、目に見える亀裂がある場合、またはトレッドが摩耗している場合は、タイヤを交換します。
 - バルブシステム付きのエアータイヤを使用している場合は、圧力を確認し、タイヤのサイドウォールに記載されている圧力に設定します。

⚠ DANGER ⚠

危険: 摩耗したタイヤは交換してください。タイヤのサイドウォールに表示される空気圧を維持できない場合、ホイールロックが適切にグリップしません。これにより、転倒または制御不能に陥り、重傷または死亡を引き起こす可能性があります。

- d. スポークホイールが緩んでいないか確認します。
- e. ホイールロックを確認します。タイヤが摩耗すると、ホイールロックを調整する必要があります。セクションX. ドラムブレーキ、Y. 押し掛け/引き掛けブレーキまたはセクションZ. 介助者用フットブレーキ(ハブロック)を参照してください。

VI. メンテナンス

B. 定期メンテナンス

- 毎週:
 - ホイールロックをチェックし、正しく調整されていることを確認します。
 - 車軸スリーブをチェックし、車軸スリーブのナットが締まっていることを確認します。
 - スポークに破損、曲がり、緩みがないか確認します。
 - キャストが自由に回転することを確認します。
 - タイヤとキャストの摩耗箇所を点検します。
 - エアータイヤが適切に膨張しているか確認します。
 - 柔らかい布でメカロックロッドを拭きます。
 - チルトケーブルを調整し、適切なチルトロック機能を確保します(セクションQ:ハンドティルトメカニズムまたはセクションR:フットティルトメカニズムを参照)。
 - ローラーベアリングを点検して、適切な機能と摩耗を確認します。
 - ハンドグリップが回転したり、外れたりしないようにしてください。
- 毎月:
 - 後輪車軸を点検し、必要に応じて締めます。
 - キャストハウジングベアリングへの毛髪の蓄積を確認し、必要に応じて取り除きます。
 - ホイールロックを点検し、アセンブリがしっかり締まっていること、ホイールロックがタイヤに適切にかみ合っていることを確認してください。
 - すべての留め具がしっかりと固定されていることを確認します。
 - フレームに変形、欠陥、亀裂、窪み、または曲がりがないか検査します。これらはフレームの疲労の兆候である可能性があり、車椅子の故障につながる可能性があります。車椅子の使用を直ちに中止し、認定されたKi Mobilityディーラーに連絡してください。
- 毎年:
 - 資格のある技術者が車椅子をチェックして調整してください。

WARNING

警告:調整後、この車椅子を使用する前に、すべての留め具がしっかりと固定されていることを確認してください。怪我や損傷が発生する可能性があります。

CAUTION

注意:留め具を締めすぎないでください。フレームのチューブが損傷する可能性があります。

DANGER

危険:これらの指示を読み、従わない場合、ユーザーまたは他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

VI. メンテナンス

C. 洗浄

- 車軸とホイール:
 - 湿った布で毎週車軸と車輪の周りを掃除してください。
 - 髪の毛や糸くずがキャストハウジングに詰まります。もつれたそれらを取り除くため、6か月ごとにキャストハウジングを分解します。

注:この車椅子にWD-40や他の浸透オイルを使用しないでください。これにより、シールドベアリングが破壊されます。

注:キャストやタイヤに化学洗浄剤を使用しないでください。

WARNING

警告:これらの指示を読み、従わない場合、車椅子の損傷、転倒、制御不能を引き起こし、ユーザーや他の人に重傷を負わせる可能性があります。

D. 保管

- 車椅子を使用しないときは、錆びや腐食の発生を防ぐため清潔で乾燥した場所に保管してください。
- 車椅子が数週間以上保管されている場合、正しく機能していることを確認してください。必要に応じて、セクションA. 車椅子の検査のすべての項目を検査し、整備する必要があります。
- 椅子が2か月以上保管されている場合、使用前に認定サプライヤによる検査と点検が必要です。

WARNING

警告:これらの指示を読み、従わない場合、車椅子の損傷、転倒、または制御不能に陥り、ユーザーまたは他の人に重傷を負わせる可能性があります。

VII. トラブルシューティング

A. 症状と解決策

最適なパフォーマンスを得るには、リトルウェーブ「フリップ」を適宜調整する必要があります。次のページには、椅子を調整するとき発生する可能性のある症状のリストと、各症状に対する1つ以上の推奨解決策があります。最良の結果を得るには、トラブルシューティングを行うときに、2つ目の解決策に進む前に一度に1つ目の解決策を試してください。症状が緩和されない場合、修理のために認定サービスセンターに椅子を持ち込むことをお勧めします。

次ページの表をご覧ください。

8

症状								解決策
車椅子がまっすぐ進まない	車椅子がガタつく	旋回性が鈍い	キャストがどちらか床に接地しない	キャストがふらつく	きしみ音やガラガラ音がする	チルト時にカラカラ音がする/傾かない	うまくチルトができない	
○			○	○				キャストシステムとの左もしくは右側の下部キャストハウジングベアリングの間にスペーサーワッシャーを追加します
○		○	○					タイヤの空気圧が両側とも正常か確認してください。
○	○			○			○	すべての留め具が締められていることを確認します。
					○			モジュラーフレームコンポーネント間にTeflon®ベースの潤滑剤 (Tri-Flow®など) を使用します。
						○	○	ケーブル/フットチルト機構が調整されていることを確認します (セクションV. K. 2またはV. L. 2を参照)。

VIII. 保証

A. 保証について

Ki Mobilityは、この車椅子のフレームとアクスル(車軸)が、最初の購入者の生涯に渡って材料と製造上の欠陥がないことを保証します。この車椅子のその他すべてのKi Mobility製の部品およびコンポーネントは、Ki Mobilityより出荷された日から1年間、この保証に基づいて材料および製造上の欠陥が発見された場合、ユーキ・トレーディングの選択によりその部品を修理するか交換するかを決定し、無償にてこれを実施します。

フレームの想定寿命は5年です。

保証の制限

- 下記については保証されません。
 - 消耗品類：シート類、タイヤ、肘掛けパッド、チューブ、肘掛け、プッシュハンドルグリップなど。
 - 放置、誤用、または不適切な設置または修理に起因する損傷。
 - 耐荷重制限を超えて使用された場合。
- 元の車椅子のシリアル番号タグが削除または変更された場合、この保証は無効になります。
- 車椅子が元の状態から修正や加工がなされ、その変更が失敗に終わったと判断された場合、この保証は無効になります。
- この保証は譲渡できません。ユーキ・トレーディングの販売店を通じて最初に購入されたご利用者にも適用します。

Ki Mobilityの対応

唯一対応可能な責任範囲は、対象部品の修理または交換です。

製品ご利用者様に対応いただきたいこと

- 保証期間内に、対象製品の状況や不具合を申し出てください。
- 製品に関する不具合の申告や修理依頼は、製品を購入された販売店を通じておこなってください。ここで示した保証以外で、市場におけるあらゆる慣習や暗黙のルールなどによる保証は除外されます。



CE